Form No. 3376-475 Rev A

TORO®

Count on it.

オペレーターズマニュアル

# Groundsmaster® 3500-G トラクション ユニット

**モデル番号30809—シリアル番号 313000001 以上**

製品の登録は: www.Toro.com.
この文書は翻訳です。(JA)

CE

*3376-475* A

この製品は、関連するEU規制に適合しています；詳細については、DOC シート（規格適合証明書）をご覧ください。

**⚠ 警告**

**カリフォルニア州**
**第65号決議による警告**

**米国カリフォルニア州では、この製品に、ガンや先天性異常などの原因となる化学物質が含まれているとされております。**

**カリフォルニア州では、この製品に使用されているエンジンの排気には発癌性や先天性異常などの原因となる物質が含まれているとされております。**

**重要 この製品のエンジンのマフラーにはスパークアレスタが装着されておりません。カリフォルニア州の森林地帯・潅木地帯・草地などでこの機械を使用する場合には、法令によりスパークアレスタの装着が義務づけられています。他の地域においても同様の規制が存在する可能性がありますのでご注意ください。**

# はじめに

この機械は回転刃を使用するロータリー式乗用芝刈り機であり、そのような業務に従事するプロのオペレータが運転操作することを前提として製造されています。この製品は、集約的で高度な管理を受けているゴルフ場やスポーツフィールド、商用目的で使用される芝生に対する刈り込み管理を行うことを主たる目的として製造されております。本機は、雑草地や道路わきの草刈り、農業用地における刈り取りなどを目的とした機械ではありません。

この説明書を読んで製品の運転方法や整備方法を十分に理解し、他人に迷惑の掛からないまた適切な方法でご使用ください。この製品を適切かつ安全に使用するのはお客様の責任です。

弊社に直接おたずねをいただく場合： www.Toro.com 製品・アクセサリに関する情報、代理店についての情報、お買い上げ製品の登録などを行っていただくことができます。

整備について、また純正部品についてなど、分からないことはお気軽に弊社代理店またはカスタマーサービスにおたずねください。お問い合わせの際には、必ず製品のモデル番号とシリアル番号をお知らせください。図 1にモデル番号とシリアル番号を刻印した銘板の取り付け位置を示します。いまのうちに番号をメモしておきましょう。

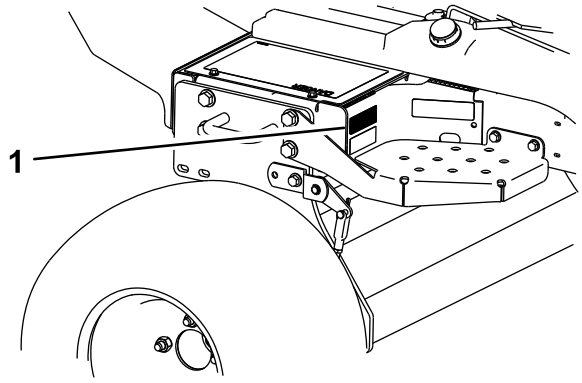



**図 1**

1. 銘板取り付け位置

**モデル番号**_____

**シリアル番号** _____

この説明書では、危険についての注意を促すための警告記号図 2を使用しております。死亡事故を含む重大な人身事故を防止するための注意ですから必ずお守りください。



**図 2**

1. 危険警告記号

この他に2つの言葉で注意を促しています。**重要**「重要」は製品の構造などについての注意点を、**注**はその他の注意点を表しています。

© 2013—The Toro® Company
8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420



連絡先： www.Toro.com.
Printed in the USA.
禁無断転載

# 目次


はじめに ..... 2
安全について ..... 4
安全な運転のために ..... 4
安全にお使いいただくために： TORO からのお願い ..... 6
音力レベル ..... 7
音圧レベル ..... 7
振動レベル ..... 7
安全ラベルと指示ラベル ..... 8
組み立て ..... 12
1 バッテリーを充電し機体に取り付ける ..... 12
2 傾斜計を点検する ..... 14
3 CE諸国用ステッカーを貼付する ..... 14
4 フードラッチを取り付ける（CE 規格） ..... 14
5 昇降アームを調整する ..... 16
6 リアバラストの取り付けについて ..... 17
製品の概要 ..... 18
各部の名称と操作 ..... 18
仕様 ..... 19
アタッチメントとアクセサリ ..... 20
運転操作 ..... 20
エンジンオイルの量を点検する ..... 20
燃料を補給する ..... 21
冷却系統を点検する ..... 22
油圧システムを点検する ..... 23
タイヤ空気圧を点検する ..... 24
ホイールナットのトルク締め ..... 24
エンジンの始動と停止 ..... 24
インタロック･システムを点検する ..... 24
緊急時の牽引について ..... 25
スタンダードコントロールモジュール (SCM) ..... 25
ヒント ..... 27
保守 ..... 29
推奨される定期整備作業 ..... 29
始業点検表 ..... 30
定期整備ステッカー ..... 31
整備前に行う作業 ..... 31
フードの外しかた ..... 31
潤滑 ..... 32
ベアリングとブッシュのグリスアップ ..... 32
エンジンの整備 ..... 35
エアクリーナの整備 ..... 35
カーボンキャニスタ・エアフィルタの交換 ..... 35
エンジンオイルとフィルタの交換 ..... 35
点火プラグの交換 ..... 36
燃料系統の整備 ..... 37
燃料ポンプフィルタの交換 ..... 37
燃料タンクの整備 ..... 37
燃料ラインとその接続の点検 ..... 37
電気系統の整備 ..... 38
バッテリーの手入れ ..... 38
ヒューズ ..... 38
走行系統の整備 ..... 39
走行ドライブのニュートラル調整 ..... 39
冷却系統の整備 ..... 39
エンジンの冷却系統の清掃 ..... 39
ブレーキの整備 ..... 40
駐車ブレーキの調整 ..... 40
ベルトの整備 ..... 40
エンジンベルトの整備 ..... 40
油圧系統の整備 ..... 41
油圧オイルフィルタの交換 ..... 41
油圧オイルの交換 ..... 41
油圧ラインとホースの点検 ..... 42
保管 ..... 43
バッテリーの保管 ..... 43
冬期格納保管のための準備 ..... 43
図面 ..... 44

# 安全について

**この製品は本書「リアバラストについて」の掲載に従ってウェイトを搭載すること により、製造時の状態においてCEN 規格EN 836 : 1997（但し所定のステッカーの貼付が条件）、および米国連邦ANSI B71.4-2012 規格による乗用芝刈機の安全基準を満たす製品です。**

**不適切な使い方をしたり手入れを怠ったりすると、人身事故につながります。事故を防止するため、以下に示す安全上の注意や安全注意標識のついている遵守事項は必ずお守りください。これは「注意」、「警告」、「危険」など、人身の安全に関わる注意事項を示しています。これらの注意を怠ると死亡事故などの重大な人身事故が発生することがあります。**

# 安全な運転のために

以下の注意事項はCEN規格EN 836:1997,ISO規格5395:1990 およびANSI規格B71.4-2012から抜粋したものです。

## トレーニング

- このオペレーターズマニュアルや関連する機器のマニュアルをよくお読みください。各部の操作方法や本機の正しい使用方法に十分慣れておきましょう。
- オペレータが日本語を読めない場合には、オーナー の責任において、このオペレーターズマニュアル の内容を十分に説明してください。
- 子供や正しい運転知識のない方には機械を操作させないでください。地域によっては機械のオペレータに年齢制限を設けていることがありますのでご注意ください。
- 周囲にペットや人、特に子供がいる所では絶対に作業をしないでください。
- 人身事故や器物損壊などについてはオペレータやユーザーが責任を負うものであることを忘れないでください。
- 人を乗せないでください。
- 本機を運転する人、整備する人すべてに適切なトレーニングを行ってください。トレーニングはオーナーの責任です。特に以下に挙げる点についての確実な理解が必要です：
  - 乗用芝刈り機を取り扱う上での基本的な注意点と注意の集中；
  - 斜面で機体が滑り始めるとブレーキで制御することは非常に難しくなること；斜面で制御不能となるおもな原因として：
    - ◊ タイヤグリップの不足；
    - ◊ 速度の出しすぎ；
    - ◊ ブレーキの不足；
    - ◊ 機種選定の不適当；
    - ◊ 地表条件、特に傾斜角度を正しく把握していなかった
    - ◊ ヒッチの取り付けや積荷の重量分配の不適切。

## 運転の前に

- 作業には頑丈な靴と長ズボン、および聴覚保護具を着用してください。長い髪、だぶついた衣服、装飾品などは可動部に巻き込まれる危険があります。また、裸足やサンダルで機械を運転しないでください。
- 機械にはね飛ばされて危険なものが落ちていないか、作業場所をよく確認しましょう。
- **警告**：燃料は引火性が極めて高い。以下の注意を必ず守ってください。
  - 燃料は専用の容器に保管する。
  - 給油は必ず屋外で行い、給油中は禁煙を厳守する。
  - 給油はエンジンを掛ける前に行う。エンジンの運転中やエンジンが熱い間に燃料タンクのふたを開けたり給油したりしない。
  - 燃料がこぼれたらエンジンを掛けない。機械を別の場所に動かし、気化した燃料ガスが十分に拡散するまで引火の原因となるものを近づけない。
  - 燃料タンクは必ず元通りに戻し、フタはしっかり締める。
- マフラーが破損したら必ず交換してください。
- 使用前に必ず、ブレード、ブレードボルト、カッターアセンブリの目視点検を行ってください。バランスを狂わせないようにするため、ブレードを交換するときにはボルトもセットで交換してください。
- 複数のブレードを持つ機械では、１つのブレードを回転させると他も回転する場合がありますから注意してください。
- 作業場所を良く観察し、安全かつ適切に作業するにはどのようなアクセサリやアタッチメントが必要かを判断してください。メーカーが認めた以外のアクセサリやアタッチメントを使用しないでください。
- オペレータコントロールやインタロックスイッチなどの安全装置が正しく機能しているか、また安全カバーなどが外れたり壊れたりしていないか点検してください。これらが正しく機能しない時には芝刈り作業を行わないでください。

## 運転操作

- 有毒な一酸化炭素ガスが溜まるような閉め切った場所ではエンジンを運転しないでください。
- 作業は日中または十分な照明のもとで行ってください。

- エンジンを掛ける前には、アタッチメントのクラッチをすべて外し、ギアシフトをニュートラルにし、駐車ブレーキを掛けてください。エンジンは、必ず運転席に座って始動してください。運転するときは必ず ROPS を取り付けた上で シートベルトを着用すること。
- 回転部やその近くには絶対に手足を近づけないでください。また排出口の近くにも絶対に人を近づけないでください。
- 「安全な斜面」はあり得ません。芝生の斜面での作業には特に注意が必要です。転倒を防ぐために以下の注意を厳守すること：
  - 斜面では急停止急発進しない。
  - 斜面の走行や小さな旋回は低速で。
  - 隆起や穴、隠れた障害物がないか常に注意する。
  - 斜面を横切りながらの作業は、そのような作業のために設計された芝刈機以外では絶対行わない。
- 隠れて見えない穴や障害物に常に警戒を怠らないようにしましょう。
- 道路付近で作業するときや道路を横断するときは通行に注意しましょう。
- 移動走行を行うときはリールの回転を止めてください。
- アタッチメントを使用するときは、排出方向に気を付け、人に向けないようにしてください。また作業中は機械に人を近づけないでください。
- ガードが破損したり、正しく取り付けられていない状態のままで運転しないでください。インタロック装置は絶対に取り外さないこと、また、正しく調整してお使いください。
- エンジンのガバナの設定を変えたり、エンジンの回転数を上げすぎたりしないでください。規定以上の速度でエンジンを運転すると人身事故が起こる恐れが大きくなります。
- 運転位置を離れる前に以下の注意を厳守すること：
  - 平坦な場所に停止する。
  - PTOの接続を解除し、アタッチメントを下降させる。
  - ギアシフトをニュートラルに入れ、駐車ブレーキを掛ける。
  - エンジンを止め、キーを抜き取る。
- 以下のような状況になった場合には、アタッチメントの駆動を停止し、エンジンを止め、キーを抜き取ってください：
  - 刈り高を変更するとき。ただし運転位置から遠隔操作で刈り高を変更できる時にはこの限りでありません。
  - 詰まりを取り除くとき。
  - 機械の点検・清掃・整備作業などを行うとき。
  - 異物をはね飛ばしたときや機体に異常な振動を感じたとき（直ちに点検してください）。機械に損傷がないか点検し、必要があれば修理を行ってください。点検修理が終わるまでは作業を再開しないでください。すべてのスピンドルプーリナットを 176～203 Nm（18～20 kg.m）にトルク締めする。
- 移動走行中や作業を休んでいるときはアタッチメントの駆動を止めてください。
- 以下の作業を行う前には、アタッチメントの駆動を止め、エンジンを止めてください：
  - 燃料補給
  - 刈り高を変更するとき。ただし運転位置から遠隔操作で刈り高を変更できる時にはこの限りでありません。
- エンジンを停止する時にはスロットルを下げておいて下さい。また、燃料バルブの付いている機種では燃料バルブを閉じてください。
- ブレードが回転中は絶対にカッティングユニットを上昇させないでください。
- カッティングユニットに手足を近づけないでください。
- バックするときには、足元と後方の安全に十分な注意を払ってください。
- 旋回するときや道路や歩道を横切るときなどは、減速し周囲に十分な注意を払ってください。
- アルコールや薬物を摂取した状態での運転は避けてください。
- 機械が落雷を受けると最悪の場合死亡事故となります。稲光が見えたり雷が聞こえるような場合には機械を運転しないで安全な場所に避難してください。
- トレーラやトラックに芝刈り機を積み降ろすときには安全に十分注意してください。
- 公道を通行することが法律で認められている場合には右左折や停止時に法律で定められている信号灯などを確実に操作してください。

## 保守整備と格納保管

- 常に機械全体の安全を心掛け、また、ボルト、ナット、ネジ類が十分に締まっているかを確認してください。
- 火花や裸火を使用する屋内で本機を保管する場合は、必ず燃料タンクを空にし、火元から十分離してください。
- 閉めきった場所に本機を保管する場合は、エンジンが十分冷えていることを確認してください。
- 火災防止のため、エンジンやサイレンサ/マフラー、バッテリー搭載部、燃料タンクの周囲、カッティングユニット駆動部の周囲、および駆動部分に、余分なグリス、草や木の葉、ホコリなどが溜まらないようご注意ください。オイルや燃料がこぼれた場合はふきとってください。

- 磨耗したり破損したりしている部品は安全のために交換してください。
- 燃料タンクの清掃などが必要になった場合は屋外で作業を行ってください。
- 複数のブレードを持つ機械では、１つのブレードを回転させると他も回転する場合がありますから注意してください。
- 機体から離れる時には必ずカッティングユニットを降下させておいてください。ただし、カッティングユニットを上昇位置に確実にロックしておくことができる場合はこの限りでありません。
- 整備・調整作業の前には、必ず機械を停止し、カッティングユニットを下げ、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止し、キーを抜いてください。また、必ず機械各部の動きが完全に停止したのを確認してから作業に掛かってください。
- 裸火の近くに燃料を保管しないでください。
- 平らな場所に停車してください。知識のない人には絶対に作業を任せないでください。
- 必要に応じ、ジャッキなどを利用して機体を確実に支えてください。
- 機器類を取り外すとき、スプリングなどの力が掛かっている場合があります。取り外しには十分注意してください。
- 修理作業に掛かる前にバッテリーの接続を外してください。バッテリーの接続を外すときにはマイナスケーブルを先に外し、次にプラスケーブルを外してください。取り付けるときにはプラスケーブルから接続します。
- ブレードを点検する時には安全に十分注意してください。ブレードを取り扱う時には必ず手袋を着用し、安全に十分注意してください。悪くなったブレードは必ず交換してください。絶対に曲げ伸ばしや溶接で修理しないでください。
- 可動部に手足を近づけないよう注意してください。エンジンを駆動させたままで調整を行うのは可能な限り避けてください。
- バッテリーの充電は、火花や火気のない換気の良い場所で行ってください。バッテリーと充電器の接続 や切り離しを行うときは、充電器をコンセントから抜いておいてください。また、安全な服装を心がけ、 工具は確実に絶縁されたものを使ってください。

# 安全にお使いいただくために: TORO からのお願い

以下の注意事項はCEN、ISO、ANSI規格には含まれていませんが、Toroの芝刈り機を安全に使用していただくために必ずお守りいただきたい事項です。

この機械は手足を切断したり物をはね飛ばしたりする能力があります。重傷事故や死亡事故を防ぐため、注意事項を厳守してください。

この機械は本来の目的から外れた使用をするとユーザーや周囲の人間に危険な場合があります。

**⚠ 警告**

**エンジンの排気ガスには致死性の有毒物質である一 酸化炭素が含まれている。屋内や締め切った場所ではエンジンを運転しないこと。**

## 運転の前に

特殊な場所（例えば斜面）のための作業手順や安全確認規則をきちんと作成し、全員がそれを守って作業を行うよう徹底してください。**本機で芝刈り作業を行う場所すべてについて斜面の危険度調査を行ってください。** この調査は、常識を十分に活かし、また、色々な芝状態や転倒の危険を考慮に入れてください。また機械に付属している携帯斜面計を使って斜面の角度を客観的に把握すること。調査の方法などについてはこのマニュアルの「運転」の章で解説しています。**機械を使用することのできる最大斜度については、傾斜計の近くに貼り付けてあるステッカーに表示してあります。**

## トレーニング

斜面での運転操作に十分に慣れていることが必要です。斜面での注意不足は転倒につながりやすく、人身事故などの大きな事故になります。

## 運転操作

- エンジンの緊急停止方法に慣れておきましょう。
- テニスシューズやスニーカーでの作業は避けてください。
- 安全靴と長ズボンの着用をおすすめします。地域によってはこれらの着用が義務付けられていますのでご注意ください。
- 機械の可動部や排出口に手足を近づけないでください。
- 給油は燃料タンクの首の根元から 6～13 mm 程度下までとする。入れすぎないこと。
- インタロックスイッチは使用前に必ず点検してください。スイッチの故障を発見したら必ず修理してから使用してください。
- エンジンを始動する前に、駐車ブレーキが確実にかかっていること、走行ペダルがニュートラルになっていること、ブレードの回転が解除にセットされていることを確認してください。エンジンが始動したら駐車ブレーキを解放し、ペダルから足を離してください。走行ペダルを踏み込まないのに本機が走り出す場合は調整が必要です。動き出す場合には、このマニュアルの「保守」の項を参照して調整を行ってください。
- 急斜面以外にも、サンドバンカーや池、溝、小川、などの近くでは特に注意が必要です。

- 小さな旋回をする時や斜面での旋回時は必ず減速すること。
- 斜面では旋回しないでください。
- 急斜面での作業は避けてください。走行できても転倒する危険があります。
- 実際に転倒が起きる角度は一定ではありません。芝草の状態や斜面の凹凸の状態、速度（特に旋回中の速度）、カッティングユニットの位置（特にサイドワインダー装着機）、タイヤ空気圧、オペレータの経験など多くの要素が複雑に絡み合って条件が形成されます。一般に傾斜角度20°以下では転倒の恐れは少ないといわれます。25°程度で転倒の恐れは中程度となります。**これ以上の角度では転倒人身事故の恐れが極めて大きくなります。この機械は傾斜角度25°以内の斜面でお使いください。**
- 下り坂ではハンドリングを安定させるためにカッティングユニットを下げてください。
- 急停止や急発進をしないでください。
- 後退ペダルをブレーキとして使用してください。
- 道路付近で作業するときや道路を横断するときは通行に注意しましょう。常に道を譲る心掛けを。
- 移動走行時にはカッティングユニットを上昇させてください。
- エンジン回転中や停止直後は、エンジン本体、マフラー、排気管、油圧オイルタンクなどに触れると火傷の危険がありますから手を触れないでください。
- この機械公道の走行を前提とした車両ではなく、いわゆる「低速走行車両」に分類されます。公道を横切ったり、公道上を走行しなければならない場合は、必ず法令を遵守し、必要な灯火類、低速走行車両の表示、リフレクタなどを装備してください。

## 保守整備と格納保管

- 整備・調整作業の前には、必ずエンジンを停止し、キーを抜いてください。
- 常に車両全体の安全を心掛けてください。また、ボルト、ナット、ネジ類が十分に締まっているかを確認してください。
- 油圧系統のラインコネクタは頻繁に点検してください。油圧を掛ける前に、油圧ラインの接続やホースの状態を確認してください。
- 油圧のピンホールリークやノズルからは作動油が高圧で噴出していますから、手などを近づけないでください。リークの点検には新聞紙やボール紙を使い、絶対に手を直接差し入れたりしないでください。高圧で噴出する作動油は皮膚を貫通し、身体に重大な損傷を引き起こします。万一、油圧オイルが体内に入った場合には、この種の労働災害に経験のある施設で数時間以内に外科手術を受けないと壊疽を起こします。
- 油圧系統の整備作業を行う時は、必ずエンジンを停止し、カッティングユニットを下降させてシステム内部の圧力を完全に解放してください。
- エンジンを回転させながら調整を行わなければならない時は、手足や頭や衣服をカッティングユニットや可動部に近づけないように十分ご注意ください。また、無用の人間を近づけないようにしてください。
- ガバナの設定を変えてエンジンの回転数を上げないでください。Toro正規代理店でタコメータによるエンジン回転数検査を受け、安全性と精度を確認しておきましょう。
- オイルの点検や補充は､必ずエンジンを停止した状態で行ってください。
- 大がかりな修理が必要になった時、補助が必要な時Toro 正規代理店にご相談ください。
- いつも最高の性能と安全性を維持するために、必ずToroの純正部品をご使用ください。他社の部品やアクセサリを御使用になると危険な場合があり、製品保証を受けられなくなる場合がありますのでおやめください。

# 音力レベル

この機械は、音力レベルが 105 dBA であることが確認されています； ただしこの数値には不確定値（K）1 dBA が含まれています。

音力レベルの確認は、ISO 11094 に定める手順に則って実施されています。

# 音圧レベル

この機械は、オペレータの耳の位置における音圧レベルが 92 dBA であることが確認されています； ただしこの数値には不確定値（K）1 dBA が含まれています。

音圧レベルの確認は、EC規則 836 に定める手順に則って実施されています。

# 振動レベル

**腕および手**

右手の振動レベルの実測値 = 0.5 $m/s^2$

左手の振動レベルの実測値 = 0.7 $m/s^2$

不確定値（K） = 0.5 $m/s^2$

実測は、EC規則 836 に定める手順に則って実施されています。

**全身**

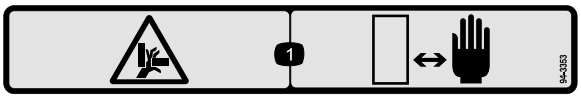
振動レベルの実測値 = 0.44 $m/s^2$

不確定値（K） = 0.5 $m/s^2$

実測は、EC規則 836 に定める手順に則って実施されています。

# 安全ラベルと指示ラベル

危険な部分の近くには、見やすい位置に安全ラベルや指示ラベルを貼付しています。破損したりはがれたりした場合は新しいラベルを貼付してください。




**94-3353**

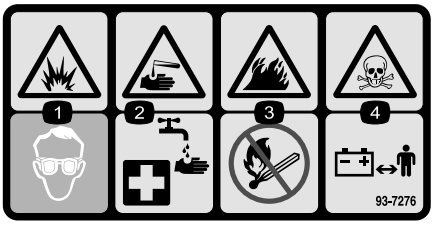
1. 手を押しつぶされる危険 - 手を近づけないこと。

---




**100-4837**

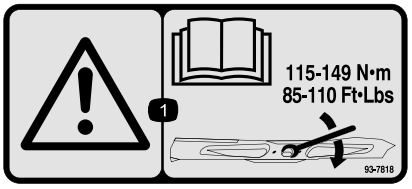
---




**93-7276**

1. 爆発危険:保護メガネを着用すること。
2. 劇薬危険:皮膚に付いたら真水で洗ってから救急手当て。
3. 火災の危険:火気厳禁・禁煙厳守のこと。
4. 毒物危険:子供を近づけないこと。

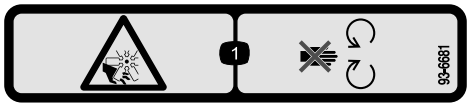
---




**93-7818**

1. 警告:ブレードボルト/ナットを 85-110 ft-lb(115-149 N-m)にトルク締めする;手順については *オペレーターズマニュアル* を読むこと。

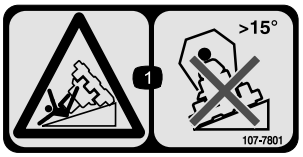
---




**93-6681**

1. ファンによる手足の切断の危険: 可動部に近づかないこと。

---




**107-7801**

**(CE規格適合に必要な場合のみ)この安全ステッカーには、ヨーロッパの芝刈り機安全規格 EN 836:1997 に適合するために必要な、斜面での運転に関する注意事項が記載されています。ここに記載されている斜面の角度は、この規格で記述され、また要求されている控えめな角度です。**

1. 転倒の危険:傾斜が15度以上の斜面に乗り入れないこと。

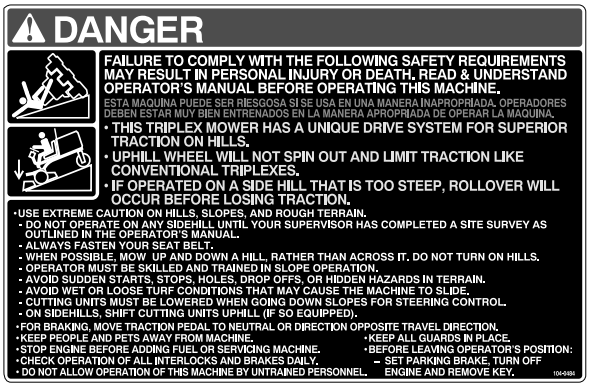
---




**106-6755**

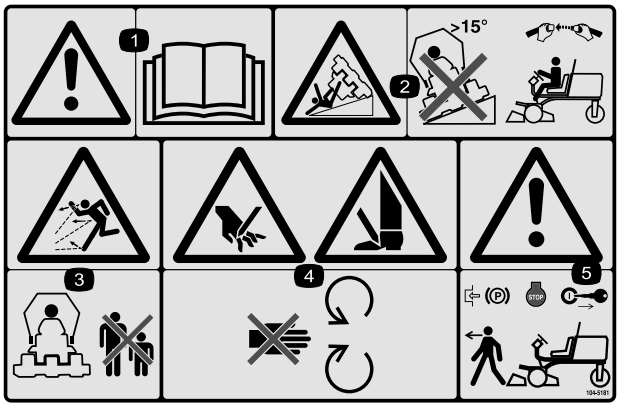
1. 冷却液の噴出に注意。
2. 爆発の危険*オペレーターズマニュアル*を読むこと。
3. 警告: 表面が熱い。触れないこと。
4. 警告: *オペレーターズマニュアル*を読むこと。

---




**104-0484**

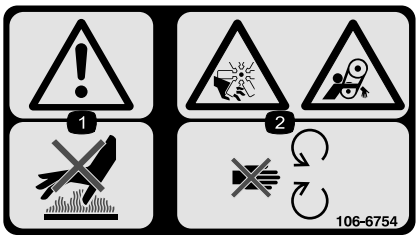
---




**104-5181**

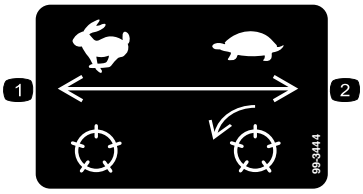
（CE用）

1. 警告：*オペレーターズマニュアル*を読むこと。
2. 転倒の危険：15° 以上の斜面では運転禁止。転倒保護バー装着車ではシートベルト着用すること。
3. 異物が飛び出す危険：人を近づけないこと。
4. 手足や指の切断の危険： 可動部に近づかないこと。
5. 警告： 車両を離れるときは駐車ブレーキをロックし、エンジンを停止し、キーを抜くこと。




**106-6754**

1. 警告： 表面が熱い。触れないこと。
2. ファンによる手足切断危険、およびベルトによる巻き込まれの危険：可動部に近づかないこと。




**99-3444**

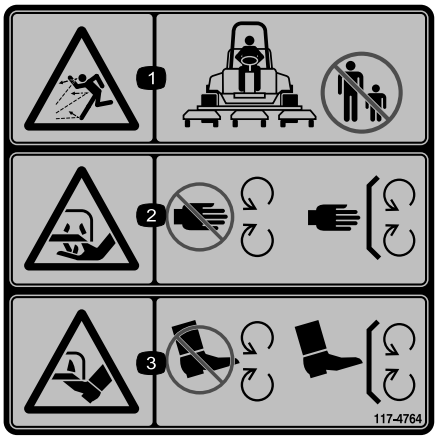
1. 移動走行速度：高速
2. 刈り込み速度：低速




**バッテリーに関する注意標識**

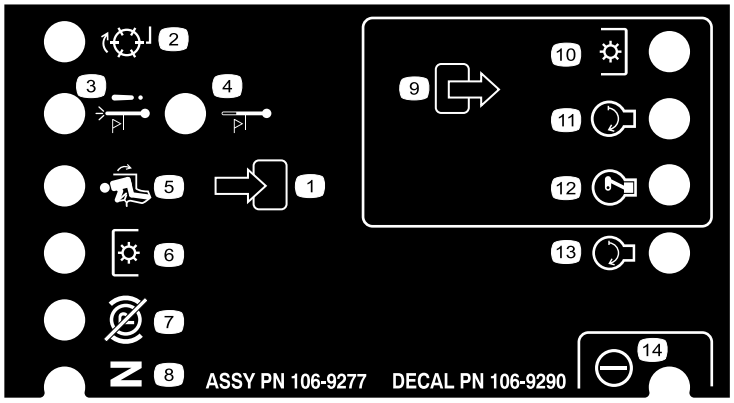
全てがついていない場合もあります

1. 爆発の危険
2. 火気厳禁、禁煙厳守のこと。
3. 劇薬につき火傷の危険あり
4. 保護メガネ等着用のこと
5. オペレーターズマニュアル*を読むこと。*
6. バッテリーに人を近づけないこと。
7. 保護メガネ等着用のこと：爆発性ガスにつき失明等の危険あり
8. バッテリー液で失明や火傷の危険あり。
9. 液が目に入ったら直ちに真水で洗眼し医師の手当てを受けること。
10. 鉛含有：普通ゴミとして投棄禁止。




**117-4764**

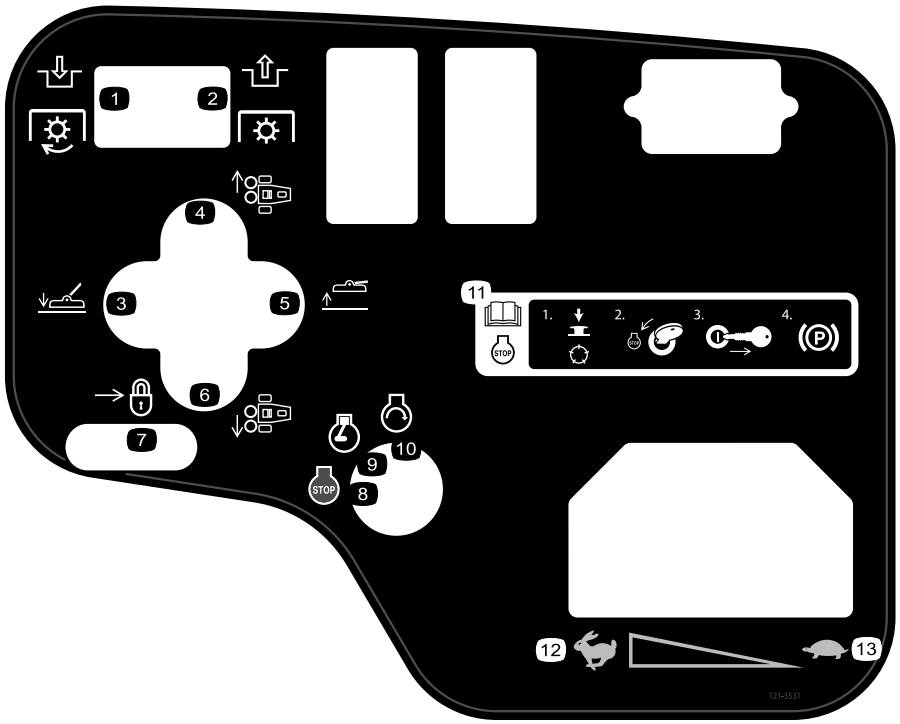
1. 異物が飛び出す危険：人を近づけないこと。
2. 手や指の切断の危険： 可動部に近づかないこと。すべてのガード類を正しく取り付けて使用すること。
3. 足の切断の危険： 可動部に近づかないこと。すべてのガード類を正しく取り付けて使用すること。




**106-9290**

1. 入力
2. 作動していない
3. オーバーヒート時のエンジン停止
4. オーバーヒート時の警告
5. 着席
6. PTO
7. 駐車ブレーキ OFF
8. ニュートラル
9. 出力
10. PTO
11. 始動
12. 通電で運転(ETR)
13. 始動
14. パワー

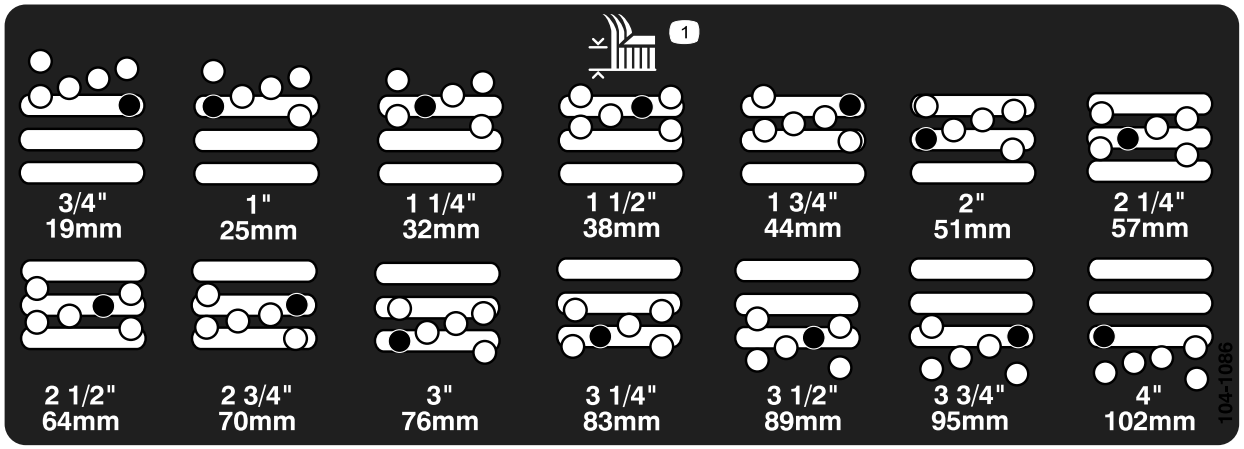
---



**121-3531**

1. PTOを入れる
2. PTOを解除
3. カッティングユニット下降
4. 右へ移動
5. カッティングユニット上昇
6. 左へ移動
7. ロック
8. エンジン: 停止
9. エンジン: 作動
10. エンジン: 始動
11. エンジン停止手順については*オペレーターズマニュアル*を参照のこと: 1) リールを停止する; 2) キーを stop 位置に回す; 3) キーを抜き取る; 4) 駐車ブレーキを掛ける。
12. 高速
13. 低速

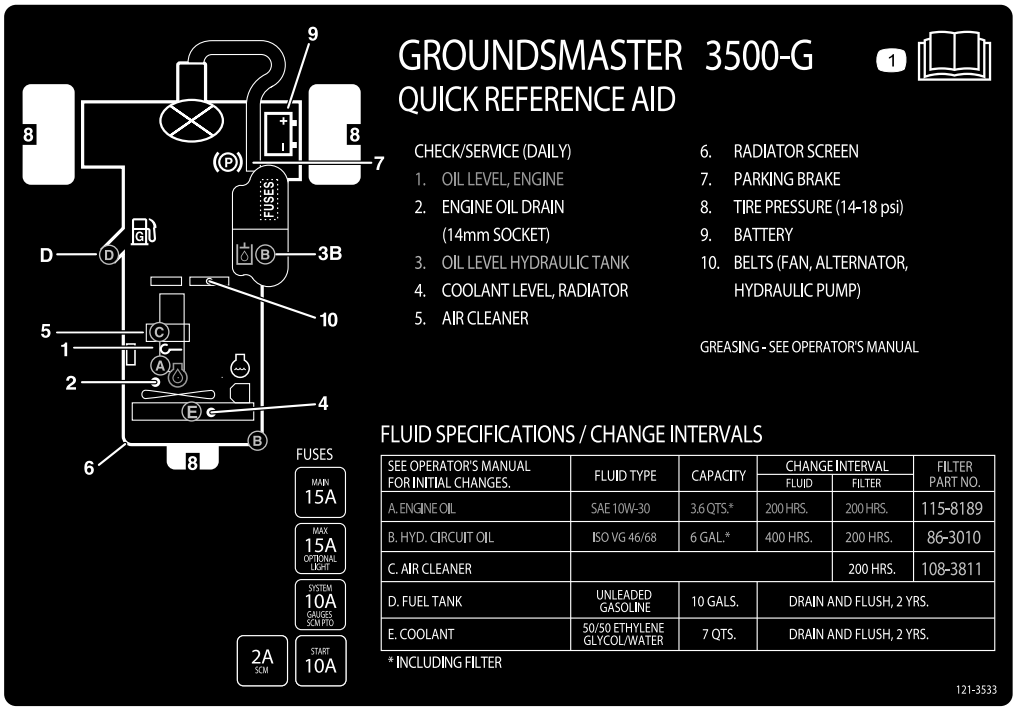
---




**104-1086**

1. 刈高

---




**121-3533**

1. 整備に関する詳しい情報は*オペレーターズマニュアル*を参照のこと。

---

# 組み立て

## 付属部品

すべての部品がそろっているか、下の表で確認してください。

| 手順 | 内容 | 数量 | 用途 |
|---|---|---|---|
| 2 | 傾斜計 | 1 | 傾斜計を点検します。 |
| 3 | 警告ステッカー（104-5181） | 1 | 必要に応じて CE ステッカーを貼り付けます。 |
| 4 | ロックブラケット<br>リベット<br>ワッシャ<br>ねじ, 1/4 x 2 inches<br>ロックナット, 1/4 inch | 1<br>2<br>1<br>1<br>1 | フードラッチを取り付け（CE 規格）ます。 |
| 5 | 必要なパーツはありません。 | – | 昇降アームを調整します。 |
| 6 | 必要なパーツはありません。 | – | リアバラスト |

## その他の付属品

| 内容 | 数量 | 用途 |
|---|---|---|
| CE 用ステッカー | 6 | 欧州規格の場合に既存の英語のステッカーの上から貼付します。 |
| 始動キー | 2 | エンジンを掛ける。 |
| オペレーターズマニュアル<br>エンジンマニュアル | 1<br>1 | ご使用前にお読みください。 |
| パーツカタログ | 1 | 交換部品の注文などにご利用ください。 |
| オペレータービデオ | 1 | ご使用前にご覧ください。 |
| 認証証明書 | 1 | CE 規格に適合していることを証明する書類です |

**注** 前後左右は運転位置からみた方向です。

# 1

# バッテリーを充電し機体に取り付ける

## 必要なパーツはありません。

## 手順

**警告**

**カリフォルニア州**
**第65号決議による警告**

**バッテリーの電極部や端子などの部分には鉛や鉛含有物質が含まれており、カリフォルニア州では、これらの物質が癌や先天性異常の原因となるとされている。**
***取り扱い後は手を洗うこと。***

**注** バッテリーに液が入っていない場合には、比重1.260 のバッテリー液を購入してバッテリーの各セルに入れてください。

**⚠ 危険**

**電解液には触れると火傷を起こす劇薬である硫酸が含まれている。**

- **電解液を飲まないこと。また、電解液を皮膚や目や衣服に付けないよう十分注意すること。安全ゴーグルとゴム手袋で目と手を保護すること。**
- **皮膚に付いた場合にすぐに洗浄できるよう、必ず十分な量の真水を用意しておくこと。**

1. フードを開ける。
2. バッテリーカバーを取り外す（図 3）。

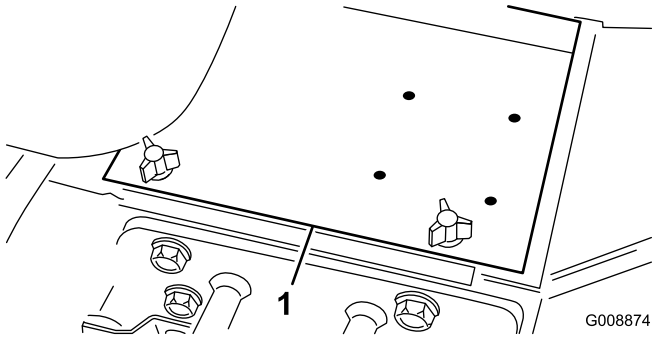



**図 3**

1. バッテリーカバー

3. バッテリーの各セルからキャップをはずし、上限までゆっくり液を満たす。
4. 各セルのキャップを取り付け、バッテリーを充電器に接続し、充電電流を 3～4 A にセットする。3～4 Aで4～8時間充電する。

**⚠ 警告**

**充電中は爆発性のガスが発生する。**

- **バッテリーにタバコの火、火花などの火気を近づけないこと。**
- **バッテリーの近くでは絶対に喫煙しない。**

5. 充電が終わったらチャージャをコンセントから抜き、バッテリー端子からはずす。
6. キャップを取る。補給リングの高さまで、各セルにバッテリー液を補給する。キャップを取り付ける。

**重要 バッテリー液を入れすぎないようにしてください。バッテリー液があふれ出て他の部分に触れると激しい腐食を起こします。**

7. 赤い（＋）ケーブルをバッテリーの（＋）端子に、黒いケーブル（－）はバッテリーの（－）端子にはめ、ボルトとナットで固定する（図 4）。プラス端子が電極に十分にはまり込んでいること、ケーブルの配線に無理がないことを確認する。ケーブルとバッテリーカバーを接触させないこと。

**⚠ 警告**

**バッテリーケーブルの接続手順が不適切であるとケーブルがショートを起こして火花が発生する。それによって水素ガスが爆発を起こし人身事故に至る恐れがある。**

- **ケーブルを取り外す時は、必ずマイナス（黒）ケーブルから取り外す。**
- **ケーブルを取り付ける時は、必ずプラス（赤）ケーブルから取り付け、それからマイナス（黒）ケーブルを取り付ける。**

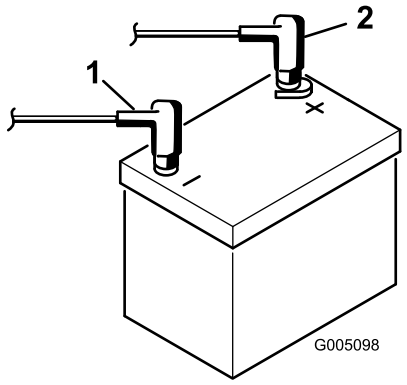



**図 4**

1. プラス(＋) バッテリーケーブル　2. マイナス(－)ケーブル

**重要 バッテリーを機体から取り外した場合には、再取り付けに際して、必ず、クランプボルトの頭が下、ナットが上になるようにしてください。逆に取り付けると、カッティングユニットをシフトさせるときにボルトが油圧チューブに当たる可能性があります。**

8. 腐食防止のために両方の端子部にワセリン（Grafo 112X スキンオーバーグリス: P/N 505-47）またはグリスを薄く塗る。
9. ショート防止のために（＋）端子にゴムキャップをかぶせる。
10. バッテリーカバーを取り付ける。

# 2

# 傾斜計を点検する

## この作業に必要なパーツ

| | |
|---|---|
| 1 | 傾斜計 |

## 手順

**⚠ 危険**

**横転事故の危険を減らすため、25 度以上の傾斜面では作業しないでください；**

1. 凹凸のない水平な場所に駐車する。
2. 機体のクロスビーム（燃料タンク脇）に携帯斜面計（付属品）を置いて、機体が水平になっていることを確認する（図 5）。このとき、運転席に座った状態で、機体に装着されている傾斜計の読みが 0° であれば問題ない。

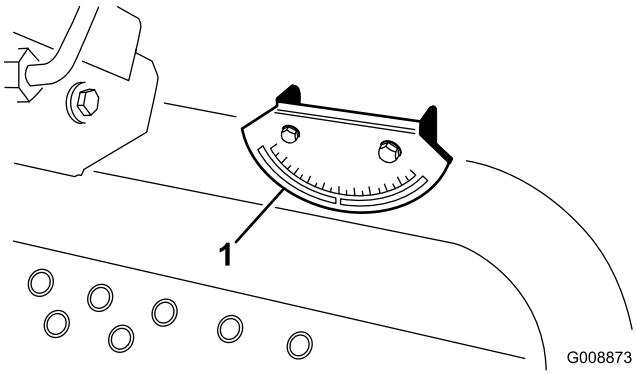



**図 5**

1. 傾斜計

3. 携帯斜面計で0° の読みが出ない場合には、駐車場所を変えて、携帯斜面計の読みで0° になるように駐車し直す。この状態で、機体に装着されている傾斜計の読みが 0° でなければいけない。
4. 機体に装着されている傾斜計の読みが 0° でない場合には、機体の傾斜計の取り付けネジをゆるめて 0° の読みが出る位置に調整し、ネジを締めて調整を固定する。

# 3

# CE諸国用ステッカーを貼付する

## この作業に必要なパーツ

| | |
|---|---|
| 1 | 警告ステッカー(104-5181) |

## 手順

CE 諸国においてこの機械を使用する場合には、英語のステッカー（104-0484）の上から警告ステッカー（104-5181）を貼ってください。

# 4

# フードラッチを取り付ける（CE 規格）

## この作業に必要なパーツ

| | |
|---|---|
| 1 | ロックブラケット |
| 2 | リベット |
| 1 | ワッシャ |
| 1 | ねじ, 1/4 x 2 inches |
| 1 | ロックナット, 1/4 inch |

## 手順

1. フードラッチブラケットからフードラッチを外す。
2. フードラッチブラケットをフードに固定しているリベット（2本）を外す（図 6）。フードからフードラッチブラケットを取り外す。

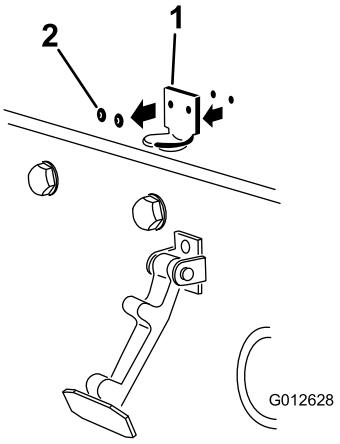



**図 6**

1. フードラッチブラケット　　2. リベット

3. CE 用ロックブラケットとフードラッチブラケットの取り付け穴をそろえて、フードの上に位置決めする。ロックブラケットをフードに当てて取り付ける（図 7）。ロックブラケットアームからボルト&ナットアセンブリを外してしまわないこと。

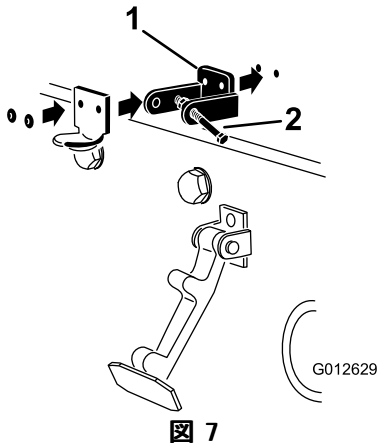



**図 7**

1. CE 用ロックブラケット　　2. ボルト＆ナットアセンブリ

4. フードの内側にある穴に、ワッシャを整列させる。
5. ブラケットとワッシャをフードにリベットで固定する（図 7）。
6. フードラッチブラケットにラッチを入れる（図 8）。

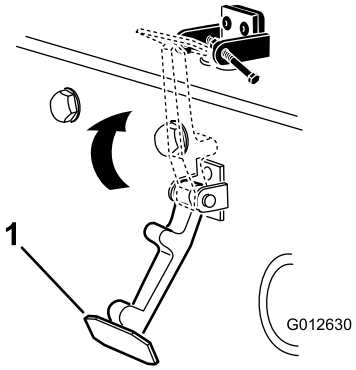



**図 8**

1. フードのラッチ

7. フードロックブラケットのもう一方のアームにボルトを取り付けてラッチを固定する（図 9）。ボルトはしっかりと固定するがナットの締め付けは行わないこと。

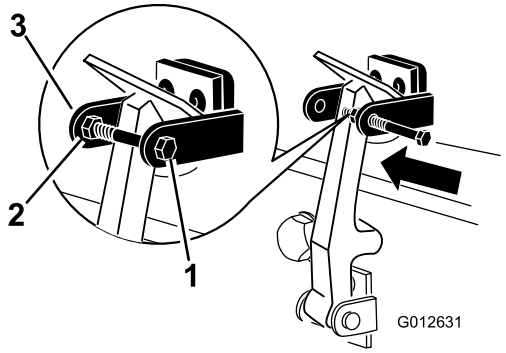



**図 9**

1. ボルト
2. ナット
3. フードロックブラケットのアーム

# 5

# 昇降アームを調整する

## 必要なパーツはありません。

## 手順

1. エンジンを始動し、カッティングユニットを上昇させ、各昇降アームとフロアプレート･ブラケットの間のすきまが 5～8 mm になっていることを確認する（図 10）。

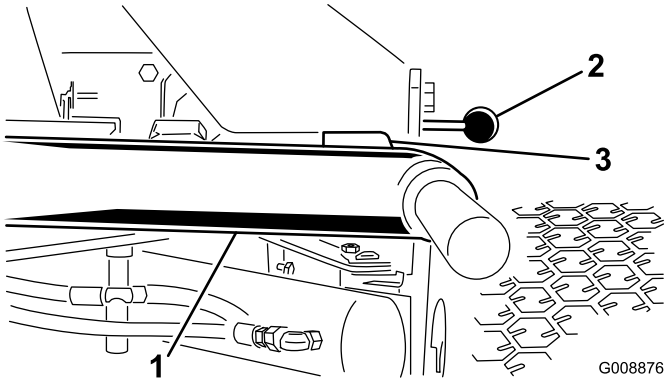



**図 10**

図はカッティングユニットを外した状態です

1. 昇降アーム
2. フロアプレートのブラケット
3. すきま

このすき間が基準通りでない場合には、以下の手順で調整する：

A. ストップボルトを戻す（図 11）。

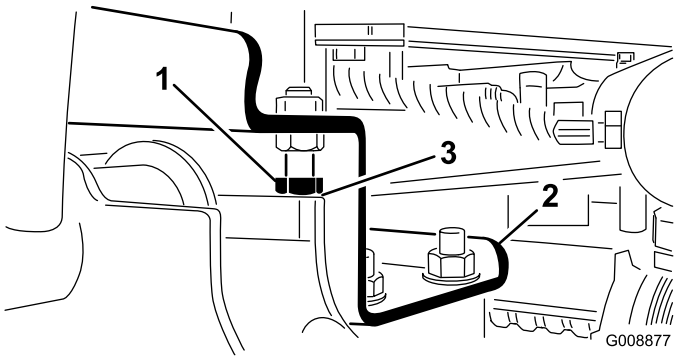



**図 11**

1. ストップボルト
2. 昇降アーム
3. すきま

B. シリンダについているジャムナットを戻す（図 12）。

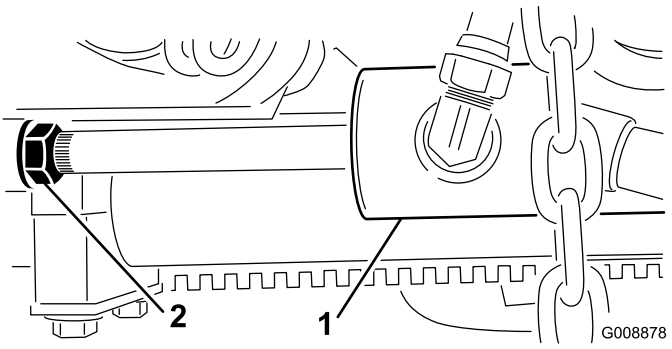



**図 12**

1. 前シリンダ
2. ジャムナット

C. ロッドの端部からピンを外し、クレビスを回転させる。

D. 調整が終わったらピンを取り付けて隙間の大きさを確認し、必要に応じて再調整する。

E. クレビスのジャムナットを締める。

2. 各昇降アームとストップボルトとの隙間が 0.13～1.02 mmの間にあるかどうか点検する（図 11）。この範囲になければストップボルトを調整する。
3. エンジンを始動し、カッティングユニットを上昇させ、後ろカッティングユニットのウェアバーの上部についているウェアストラップからバンパーストラップまでの距離が 0.5～2.5 mm の間にあるかどうか点検する（図 13）。

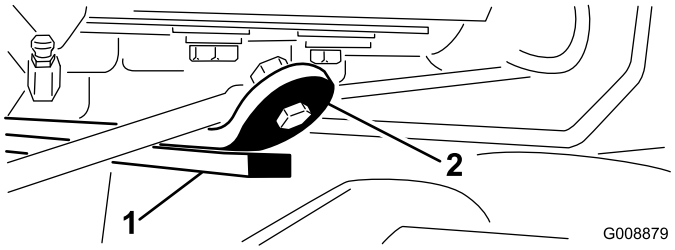



**図 13**

1. ウェアバー　　2. バンパーストラップ

このすき間が基準通りでない場合には、以下の手順で後シリンダを調整する：

**注** 移動走行中に後昇降アームが「ガタつく」ようであれば隙間を小さくしてください。

A. カッティングユニットを降下させ、シリンダについているジャムナットを戻す（図 14）。

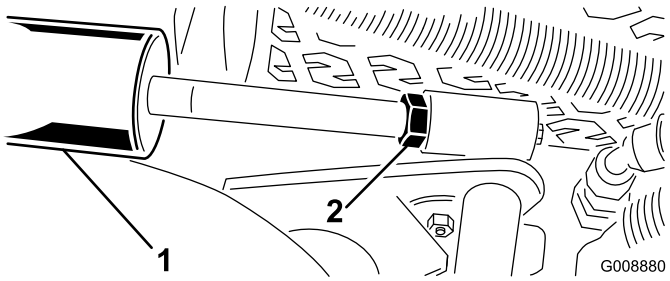



**図 14**

1. 後シリンダ　　2. 調整ナット

B. ジャムナットを戻すには、シリンダロッドのナットに近い方の部分をウェスとプライヤで握って回す。

C. 調整ができたらカッティングユニットを上昇させて隙間を点検し、必要に応じて再調整する。

D. クレビスのジャムナットを締める。

**重要 前ストップや後ウェアバーに隙間がないと昇降アームが破損する場合があります。**

# 6

# リアバラストの取り付けについて

## 必要なパーツはありません。

## 手順

本機は、後輪にバラストとして塩化カルシウム 22.6 kg を搭載することにより、CEN 規格EN 836：1997、および米国連邦 ANSI B71.4-2012 規格にを満たす製品となります。

**重要 塩化カルシウムを搭載してタープで作業中に万一パンクした場合は、すぐにマシンをタープの外へ退避させてください。そして、タープへの被害を防止するため、塩化カルシウム液がこぼれた場所に十分な散水を行ってください。**

# 製品の概要

## 各部の名称と操作

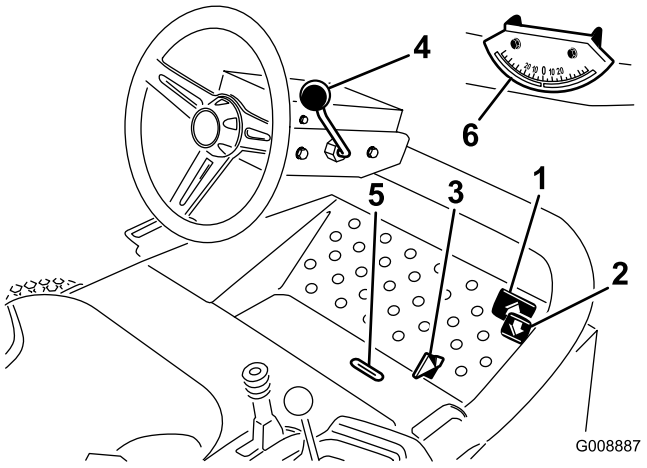



**図 15**

1. 前進走行ペダル
2. 後退走行ペダル
3. 刈り込み･移動走行切り換えレバー
4. チルト調整レバー
5. インジケータ窓
6. 傾斜計

### 走行ペダル

前進走行を行なうには、走行ペダル（図 15）を踏み込みます。後退ペダル（図 15）を踏み込むと後退しますが、前進走行中はブレーキとしてもこのペダルを使用できます。ペダルから足をはなせばニュートラル位置となり、車両は停止します。

### 刈り込み･移動走行切り換えレバー

かかとで操作するレバーです（図 15）。左位置で移動走行モード、右位置で刈り込みモードとなります。**カッティングユニットは刈り込みモード以外では動作しません。**

**重要 刈り込み速度は出荷時の設定で9.7 km/hですが、ストップねじ（図 16）の調整で速度を上げることができます。**

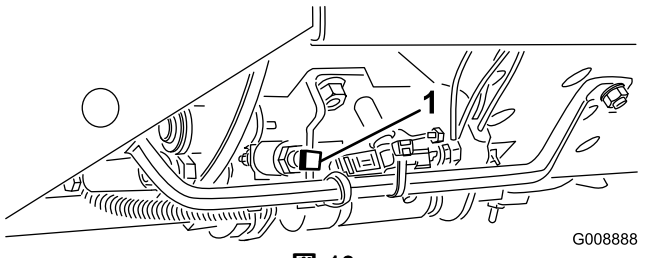



**図 16**

1. スピードストップねじ

### チルト調整レバー

このレバー（図 15）を手前に引いてハンドルを適当な位置に調整します。調整ができたらレバーを前に倒して固定します。

### インジケータ窓

カッティングユニットが中央位置にあるかどうかを確認するための窓（図 15）です。

### 傾斜計

機体の左右の傾きを表示する計器です（図 15）。

### 始動スイッチ

始動スイッチ（図 17）はエンジンの始動と停止を行うスイッチで、3つの位置があります： OFF, ON, STARTの 3 位置です。キーを回してSTART位置にすると、スタータモータが始動します。エンジンが始動したら、キーから手を離す。キーは自動的に ON 位置まで戻ります。キーを OFF 位置に回せばエンジンは停止します。事故防止のため、キーは抜き取っておいてください。

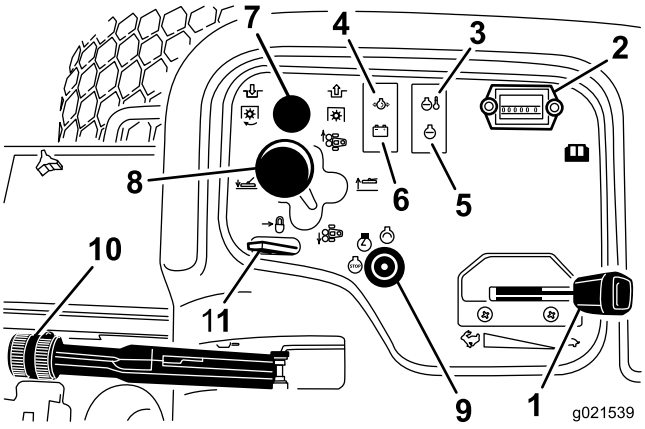



**図 17**

1. スロットル
2. アワーメータ
3. 冷却水温警告灯
4. オイル圧警告灯
5. エンジン点検ランプ
6. オルタネータランプ
7. PTO スイッチ
8. カッティングユニットのシフトレバー
9. 始動スイッチ
10. 駐車ブレーキ
11. 昇降レバーロック

### スロットル

スロットル（図 17）を前に倒すとエンジン回転速度が速くなり、後ろに引くと遅くなります。

### PTO スイッチ

PTOスイッチ（図 17）には2つの位置があります： Out（回転）とIn（停止）です。PTO ボタンを引き出すと、カッティングユニットが作動を開始し

ます。ボタンを押し込むと、カッティングユニットが作動を停止します。

## アワーメータ

アワーメータ（図 17）は左側コントロールパネルにあって本機の稼働時間を積算表示します。このメータは始動スイッチをON位置にすると始動します。

## カッティングユニットのシフトレバー

このレバー（図 17）をに倒すとカッティングユニットが下降します。エンジンが作動していないとカッティングユニットは下降しません。レバーを手前の Raise 位置に引けばカッティングユニットは上昇します。

レバーを左右に動かすとカッティングユニットがその方向にスライドします。この操作はカッティングユニットを上昇させた状態で、または芝刈り走行中以外には行わないでください。

**注** カッティングユニットを下降させる時、レバーを前位置に保持しておく必要はありません。

**⚠ 危険**

**斜面を横断しているとき、カッティングデッキを谷側にシフトさせるのは重心を谷側に移すことになり、転倒など、生命に関わる重大な人身事故を起こしやすくなる。**

**斜面横断中はカッティングデッキを山側にシフトさせておくこと。**

## 冷却水温警告灯

エンジンの冷却水の温度が異常に高くなると警告灯（図 17）が点灯します。トラクタの運転が停止されず、冷却水温度がさらに4° C 上昇すると自動的にエンジンを停止させます。

## エンジンオイル圧警告灯

エンジンオイルの圧力が異常に低下するとこの警告灯（図 17）が点灯します。

## オルタネータ･ランプ

オルタネータ･ランプ（図 17）は、エンジンが作動中は消えているのが正常です。点灯した場合は充電系統の異常ですから修理が必要です。

## エンジン点検ランプ

エンジン点検ランプ（図 17）は、エンジンが作動中は消えているのが正常です。点灯している場合には、サービスマニュアルを参照してください。

## 駐車ブレーキ

エンジンを停止させる時には、車体が不意に動き出さないよう、必ず駐車ブレーキ（図 17）を掛けてください。レバーを手前に引くと駐車ブレーキがかかります。駐車ブレーキが掛かっているのに走行ペダルが踏むとエンジンが停止します。

## 昇降レバーロック

昇降レバーロック（図 17）を後方に倒すとカッティングユニットがロックされ、落下を防止します。

## 燃料計

燃料計（図 18）は、燃料タンクに残っている燃料の量を表示します。

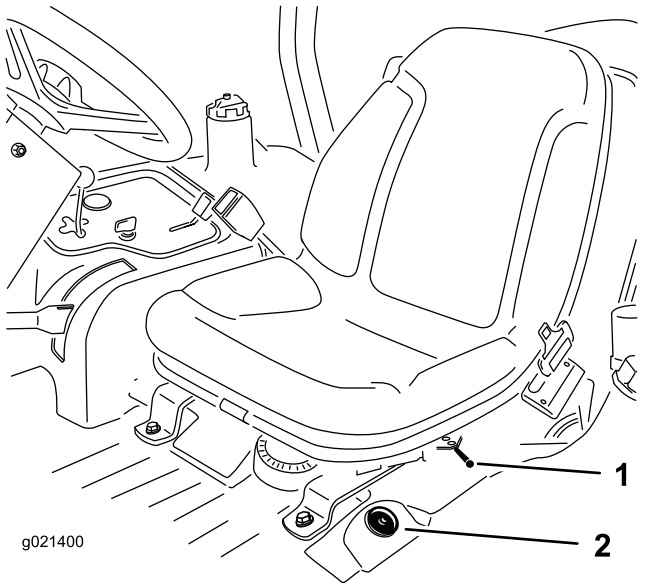



**図 18**

1. 前後調整レバー
2. 燃料計

## 座席調整レバーによる調整

運転席の横についているレバー(図 18)を外側に引いて運転席を希望の位置にスライドさせ、その位置でレバーから手を離すと運転席が固定されます。

# 仕様

**注** 仕様および設計は予告なく変更される場合があります。

| | |
|---|---|
| 全幅 | 182cm |
| 刈幅 | 173 cm() |
| 長さ | 295cm |
| ROPS 最上部までの高さ | 180cm |

| | |
|---|---|
| ホイールベース | 149cm |
| トレッド | 145cm |
| 地上高 | 15.3cm |
| 重量(カッティングユニットを含む) | 963 kg |

## アタッチメントとアクセサリ

トロが認定した各種のアタッチメントやアクセサリがそろっており、マシンの機能をさらに広げることができます。 詳細は弊社の正規サービスディーラ、または代理店へお問い合わせください。 www.Toro.com でもすべての認定アタッチメントとアクセサリをご覧になることができます。

# 運転操作

**注** 前後左右は運転位置からみた方向です。

## エンジンオイルの量を点検する

**整備間隔:** 使用するごとまたは毎日

エンジンにはオイルを入れて出荷していますが、初回運転の前後に必ずエンジンオイルの量を確認してください。

油量は約 3.3 リットル（フィルタ共）です。

**注** Toro のプレミアムエンジンオイル（10W-30 または 5W-30）を代理店にてお求めいただくことができます。パーツカタログでパーツ番号をご確認ください。

**注** エンジンオイルを点検する最もよいタイミングは、その日の仕事を始める直前、エンジンがまだ冷えているうちです。既にエンジンを始動してしまった場合には、一旦エンジンを停止し、オイルが戻ってくるまで約 10 分間程度待ってください。油量がディップスティックのADDマークにある場合は、FULLマークまで補給してください。入れすぎないこと。油量が ADD マークと FULLマークの間であれば補給の必要はありません。

オイルは、API（米国石油協会）規格 SJ, SK, SL, SM またはそれ以上のグレードの10W-30洗浄性オイルを使用します。図 19の表を使って適切な粘度を選んでください。

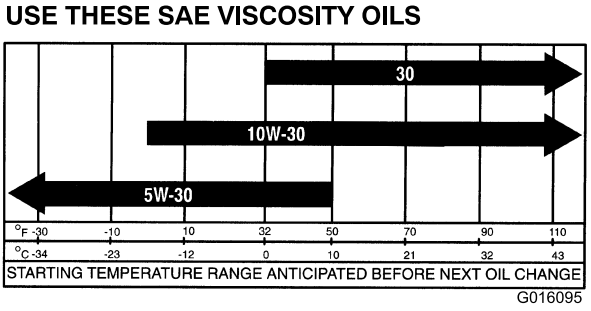



**図 19**

1. 平らな場所に駐車し、エンジンを停止し、フードを開ける。
2. ディップスティック（図 20）を抜き､ウェスで一度きれいに拭く。ディップスティックを、チューブの根元までもう一度しっかりと差し込む。ディップスティックをもう一度抜きとって、オイルの量を点検する。

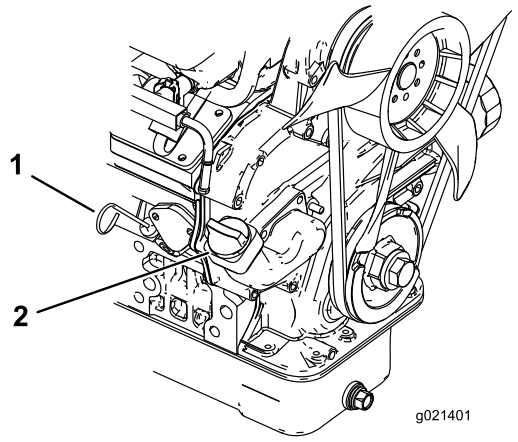



**図 20**

1. ディップスティック　　2. 給油口キャップ

3. オイルの量が不足している場合は、補給口のキャップ（図 20）を取り、ディップスティックの FULL マークまで補給する。

   **注** 補給は､通気を確保するためにディップスティックを抜いて行い、時々ディップスティックで確認しながら少量ずつ入れてください。入れすぎないこと。

   **重要 エンジンオイルを補給する時には、補給口とジョウゴなどの間に 図 21 に示すようなすき間が必要です。これは補給の際に通気を確保し、オイルがブリーザ内部に侵入しないようにするためです。**

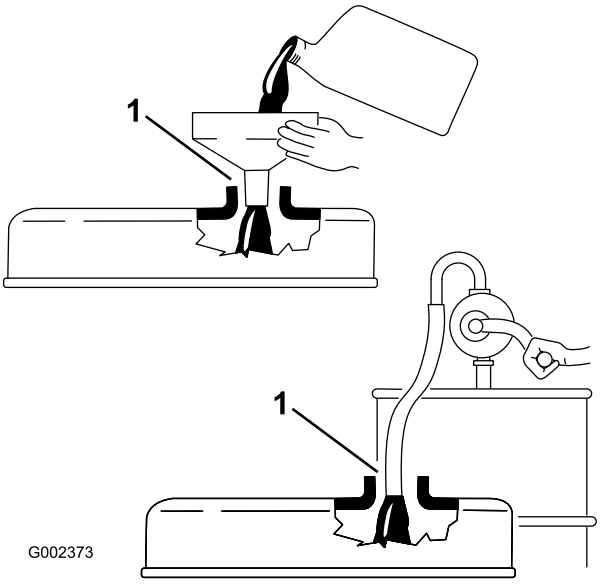



**図 21**

1. ここにすき間をあける

4. ディップスティックをしっかり差し込んで終了。
5. オイルキャップとディップスティックを取り付け、フードを閉じる。

# 燃料を補給する

**Toro® 社では、ガソリンエンジンを搭載したトロ社製品には、新しい、不純物を含まない、自動車用無鉛レギュラーガソリンを使用していただくことを強くをお奨めします。無鉛ガソリンは燃焼がきれいでエンジンを長持ちさせ、内部の異物の堆積も少ない利点があります。オクタン価 87 以上のガソリンをご使用ください。**

燃料タンク容量は約 38 リットルです。

**注** メタノール、有鉛ガソリン、メタノール添加ガソリン、10%以上のエタノールを添加したガソリン、ガソリン添加物、ホワイトガソリンなどは本機の燃料システムを損傷しますから絶対に使用しないでください。

1. 燃料タンクのキャップ（図 22）の周囲をきれいに拭く。
2. 燃料タンクのキャップを取る。
3. タンクの首の根元まで燃料を入れる。**入れすぎないこと。**給油が終わったらキャップを締める。
4. こぼれた燃料は火災防止のためにすぐに拭き取る。

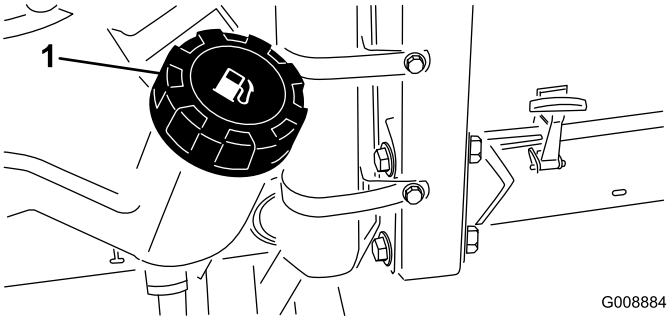



**図 22**

1. 燃料タンクのキャップ

**⚠ 危険**

**ガソリンは非常に引火･爆発しやすい物質である。発火したり爆発したりすると、やけどや火災などを引き起こす。**

- **燃料タンクのキャップを外す前に、必ず平らな場所に駐車していることを確認すること。燃料タンクのキャップはゆっくり開けること。**
- **燃料補給は必ず屋外で、エンジンが冷えた状態で行う。こぼれたガソリンはふき取る。**
- **箱型トレーラに本機を搭載した状態では、絶対に本機への燃料補給をしてはならない。**
- **燃料タンク一杯に入れないこと。給油は燃料タンクの首の根元から6～13 ㎜程度下までとする。これは、温度が上昇して燃料は膨張したときにあふれないように空間を確保するためである。**
- **ガソリン取り扱い中は禁煙を厳守し、火花や炎を絶対に近づけない。**
- **燃料は安全で汚れのない認可された容器に入れ、子供の手の届かない場所で保管する。30日分以上の買い置きは避ける。**
- **運転時には必ず適切な排気システムを取り付け正常な状態で使用する。**

**⚠ 危険**

**燃料を補給中、静電気による火花がガソリンに引火する危険がある。発火したり爆発したりすると、やけどや火災などを引き起こす。**

- **ガソリン容器は車から十分に離し、地面に直接置いて給油する。**
- **車に乗せたままの容器にガソリンを補給しない。車両のカーペットやプラスチック製の床材などが絶縁体となって静電気の逃げ場がなくなるので危険である。**
- **可能であれば、機械を地面に降ろし、車輪を地面に接触させた状態で給油を行う。**
- **機械を車に搭載したままで給油を行わなければいけない場合には大型タンクのノズルからでなく、小型の容器から給油する。**
- **大型タンクのノズルから直接給油しなければならない場合には、ノズルを燃料タンクの口に常時接触させた状態で給油を行う。**

# 冷却系統を点検する

**整備間隔:** 使用するごとまたは毎日

冷却システムの容量はおよそ 5.7 リットルです。

ラジエター/オイルクーラは毎日清掃してください（図 23）。ほこりの多い環境で使用している場合には、毎時間ごとに清掃してください；「エンジンの冷却系統の清掃」を参照。

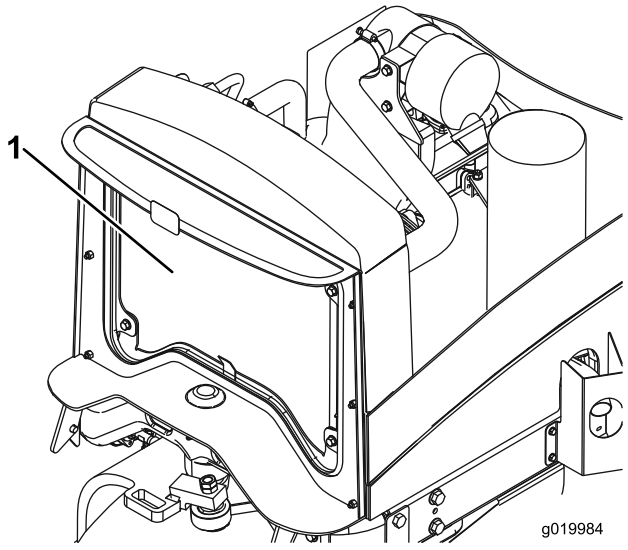



**図 23**

1. ラジエター/オイルクーラ

ラジエターの冷却液は、水とエチレングリコール不凍液の 50/50 混合液です。毎日の作業前に液量を点検してください。

**⚠ 注意**

**エンジン停止直後にラジエターのキャップを開けると、高温高圧の冷却液が吹き出してやけどを負う恐れがある。**

- **エンジン回転中はラジエターのふたを開けないこと。**
- **キャップを開けるときはウェスなどを使い、高温の水蒸気を逃がしながらゆっくりと開けること。**

1. 補助タンクの冷却水量を点検する（図 24）。エンジンが冷えた状態で、タンク側面についている２本の線の間にあれば適切である。
2. 冷却液の量が足りない場合には、補助タンクのキャップを取ってここから補給する。**入れすぎはよくない。**
3. 補助タンクのキャップを取り付けて終了。

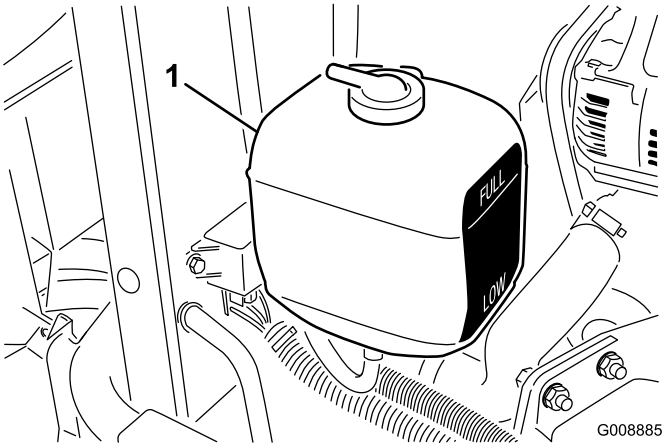



**図 24**

1. **補助タンク**

# 油圧システムを点検する

**整備間隔:** 使用するごとまたは毎日−油圧オイルの量を点検する。

油圧オイルタンクに約 22.7 リットルの高品質油圧オイルを満たして出荷しています。**初めての運転の前に必ず油量を確認し、その後は毎日点検してください。** 交換用の推奨油圧オイルは **オールシーズン用 Toro プレミアム油圧オイルを**です（19 リットル缶または 208 リットル缶）。パーツカタログまたは代理店でパーツ番号をご確認ください。

代替製品： Toro のオイルが入手できない場合は、以下に挙げる特性条件および産業規格を満たすオイルを使用することができます。トロ社では合成オイルの使用をお奨めしておりません。オイルの専門業者と相談の上、適切なオイルを選択してください：不適切なオイルの使用による損害については弊社は責任を持ちかねますので、品質の確かな製品をお使い下さる様お願いいたします。

**高粘度インデックス／低流動点アンチウェア油圧作動液, ISO VG 46**

物性:

| | |
|---|---|
| 粘度, ASTM D445 | cSt @ 40° C 44 − 48<br>cSt @ 100° C 7.9 − 8.5 |
| 粘性インデックス ASTM D2270 | 140−160 |
| 流動点, ASTM D97 | −37° C〜−45° C |

産業規格:

ヴィッカース I-286-S（品質レベル), ヴィッカース M-2950-S（品質レベル), デニソン HF-0

**注** 多くの油圧オイルはほとんど無色透明であり、そのためオイル洩れの発見が遅れがちです。油圧オイル用の着色剤（20cc 瓶）をお使いいただくと便利です。1瓶で15〜22 リットルのオイルに使用できます。パーツ番号は P/N 44-2500。ご注文は Toro 代理店へ。

### 生分解性油圧オイル − Mobil 224H

**Toro生分解油圧オイルを販売しています**（19 リットル缶または 208 リットル缶）パーツカタログまたは代理店でパーツ番号をご確認ください。

他に使用可能なオイル： Mobil EAL 224H

植物性オイルをベースにした油オイルであり Toro 社が本機への使用を認めている唯一の生分解オイルです。通常の油圧オイルに比べて高温への耐性が低いので、本書の記述に従って必要に応じてオイルクーラを装備し、所定の交換間隔を守ってお使いください。鉱物性のオイルが混合すると、生分解オイルの毒性や生分解性能が悪影響を受けます。従って、通常のオイルから生分解オイルに変更する場合には、所定の内部洗浄手順を守ってください。くわしくは Toro 代理店にご相談 ください。

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを降下させ、エンジンを停止させる。
2. 油圧オイルタンクの注油口周辺をきれいに拭き、キ ャップ（図 25）を外す。キャップを外す。

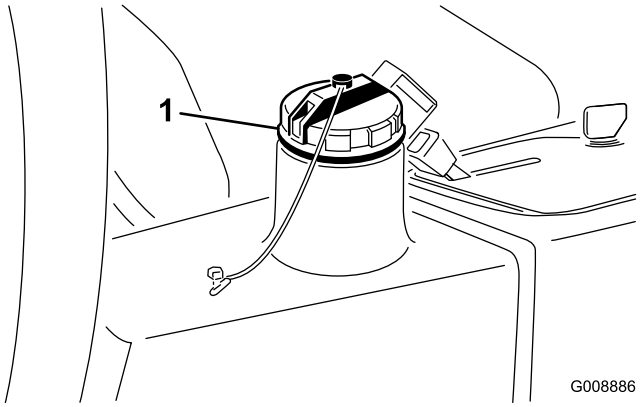



**図 25**

1. 油圧オイルタンクのキャップ

3. 補給口の首からディップスティックを抜き、ウ ェスできれいに拭う。もう一度首に差し込んで引き抜き、オイルの量を点検する。2本のマークの間にあれば適正である。
4. 油量が少なければFULLマークまで補給する。
5. ディップスティックとキャップを取り付ける。

# タイヤ空気圧を点検する

**整備間隔:** 使用するごとまたは毎日

タイヤは空気圧を高めに設定して出荷しています。運転前に正しいレベルに下げてください。適正範囲は前後輪 とも97～124 kPa (1.0-1.2 kg/cm2) です。

**注** 全部のタイヤを同じ圧力に調整しないと機械の性能が十分に発揮されず、刈り上がりの質が悪くなります。

**⚠ 危険**

**タイヤ空気圧が不足すると、斜面で機体が不安定になり、転倒など、生命に関わる重大な人身事故を起こしやすくなる。**

**タイヤ空気圧は絶対に規定値以下に下げてはならない。**

# ホイールナットのトルク締め

**整備間隔:** 使用開始後最初の 1 時間

使用開始後最初の 10 時間

200運転時間ごと

ホイールナットを61～88 Nm (3.1～4.5 kg.m) にトルク締めする。

**⚠ 警告**

**適切なトルク締めを怠ると車輪の脱落や破損から人身事故につながる恐れがある。**

# エンジンの始動と停止

## エンジンの始動手順

1. 駐車ブレーキが掛かっていること、カッティングユニットの駆動スイッチが OFF 位置にあることを確認する。
2. 走行ペダルから足をはなしてペダルがニュートラル位置にくることを確認する。
3. スロットルをハーフスロットル位置にする。
4. スイッチにキーを差し込んで右に回し、START位置にすると、スタータモータが始動します。エンジンが始動したら、キーから手を離す。キーは自動的に On/Run 位置まで戻ります。

   **重要 スタータモータのオーバーヒートを防止するため、スタータは15 秒間以上連続で回転させないでください。15秒間連続で使用したら､60秒間の休止時間をとってください。**

## エンジンの停止手順

エンジンを停止するには、スロットルをアイドル位置、カッティングユニット駆動スイッチを OFF 位置に戻し、始動キーをOFF位置に回して抜き取る。事故防止のため、キーは抜き取っておく。

# インタロック･システムを点検する

**整備間隔:** 使用するごとまたは毎日

**⚠ 注意**

**インタロックスイッチは安全装置であり､これを取り外すと予期せぬ人身事故が起こり得る。**

- **インタロックスイッチをいたずらしない。**
- **作業前にインタロックスイッチの動作を点検し、不具合があれば作業前に交換修理する。**

1. 無用の人間をすべて遠ざけてください。カッティングユニットに手足を近づけないでください。
2. カッティングユニットのスイッチをON位置または走行ペダルが踏まれた状態では、着席してもエンジンを始動することは出来ない。動くのはインタロックの故障であるから直ちに修理する。
3. 着席した状態で、走行ペダルをニュートラル位置にし、駐車ブレーキを解除し、カッティングユニットのスイッチをOFF位置にセットする。エンジンを始動する。運転席から立ち上がり、走行ペダルをゆっくりと踏み込んでみる；1～3秒でエンジンが停止すれば正常。

停止しないのはインタロックの故障であるから直ちに修理する。

**注** 駐車ブレーキにもインタロック･スイッチが搭載されています。駐車ブレーキを掛けたままで走行ペダルが踏まれるとエンジンを停止させます。

# 緊急時の牽引について

緊急時には、短距離に限り、マシンを牽引または押して移動することができますが、トロではこの方法は緊急用以外には使用しないようにすることをお奨めしています。

**重要 牽引移動時の速度は、3 ～ 4km/h としてください。これ以上の速度では走行系統に損傷を与える恐れがあります。長い距離を移動しなければならない場合にはトレーラなどを使用してください。**

1. 油圧ポンプについているバイパスバルブ（図26）を90°回転させる。

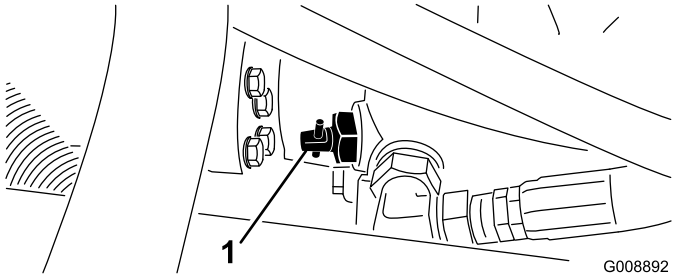



**図 26**

1. **バイパスバルブ**

2. エンジンを掛ける時にはバルブを90°（1/4 回転）させて元通りに閉める。バルブを開けたままでエンジンを掛けないこと。

# スタンダードコントロールモジュール(SCM)

スタンダードコントロールモジュールは樹脂によって完全封止された汎用制御モジュールです。電子回路により機械の状態の制御と監視を行い、機械を安全に動作させるために必要な電子制御を実現しています。

モジュールは、入力信号として、ニュートラル状態、駐車ブレーキ、PTO、エンジン始動、バックラップ、オーバーヒートなどの情報を取り込みます。そして、これらの入力情報に対する応答として、PTOスイッチ、スタータスイッチ、ETR（エンジン駆動ソレノイド）を制御します。

モジュール表面は入力表示部と出力表示部に分かれています。入力側の情報も出力側の情報も回路基盤に搭載された緑色の LED で表示されます。

エンジン始動回路のLEDはDC 12Vの通電で点灯します。その他の入力表示回路は回路が閉じてアースされた時に通電状態となります。どの入力表示LEDも、その回路に通電があったときに点灯します。これらの入力表示LEDは故障探究のときに利用することが出来ます。

出力回路はそれぞれ所定の入力がそろった時に通電状態となります。出力回路はPTO、ETR、STARTの3 種類です。これらの LED はそれぞれの出力端子に接続されたリレーの状態や電圧状態をモニタしています。

出力回路が健全でも、出力装置そのものが健全であることは保証できません。ですから電気系統の故障探究を行う時には、出力LEDのチェック以外に各機器の通常のテストやワイヤハーネスの検査が必要になります。各機器のインピーダンス測定、ワイヤハーネスをつないだ状態（SCMのところで切り離した状態）でのインピーダンス測定、一時的な通電試験などを行ってみる必要があるでしょう。

SCMは外部のコンピュータや診断機器に接続することはできません。また、内部のプログラムを改変することもできませんし、発生した故障内容を記憶しておくこともできません。

SCM上のLEDの説明は絵文字です。枠で囲まれた3 つが出力です。それ以外はすべて入力です。以下の表（図 27）に記号とその意味を示します。

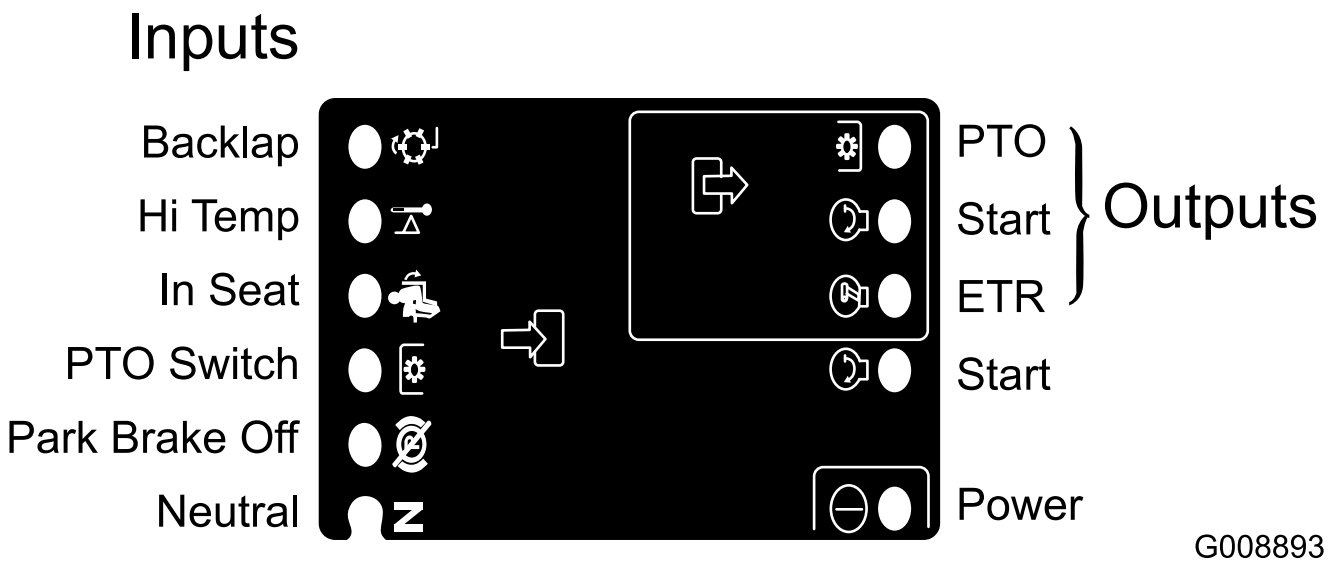



**図 27**

SCMを使った故障探究手順は以下の通りです。

1. どの出力を調べたいのかを決める（PTO、始動、ETR）。
2. 始動キーをONにして、赤い電源LEDが点灯するのを確認する。
3. 全部の入力スイッチを操作して、対応する入力LED が点灯するのを確認する。
4. スイッチやレバーを操作して、調べたい出力に必要な入力条件を作り出す。入力条件は、次ページのロジックチャートで調べることができる。
5. 出力LEDが点灯しているのにその機器が作動しない場合には、出力ハーネス、そこから先の接続、機器そのものの故障が疑われる。必要時応じて修理する。
6. 出力LEDが点灯しない場合には、ヒューズ（両方）を点検する。
7. 入力が正常なのに出力LEDが点灯しない場合には、SCMを交換してみる。

チャートの各行（横列）は、その出力機能に必要な入力の状態を示します。チャートの左欄に、機能が示されています。各記号は以下のような意味を表します： 通電、閉じてアースされている、開いてアースされている。

| | 入力 | | | | | | | | 出力 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 機能 | パワー On | ニュートラル | 始動 On | ブレーキが ON | PTO ON | 着席 | オーバーヒート | バックラップ | 始動 | ETR | PTO |
| 始動 | − | − | + | O | O | − | O | O | + | + | O |
| 運転(非着席) | − | − | O | O | O | O | O | O | O | + | O |
| 運転(着席) | − | O | O | − | O | − | O | O | O | + | O |
| 刈り込み | − | O | O | − | − | − | O | O | O | + | + |
| バックラップ | − | − | O | O | − | O | O | − | O | + | + |
| オーバーヒート | − | | O | | | | − | | O | O | O |

- (-)： 回路が閉じてアースされている。- LED 点灯
- (O)： 回路が開いてアースされているか非通電状態 - LED 消灯
- +： 回路は通電している（クラッチコイル、ソレノイド、始動キー） LED点灯
- 空白： そのロジックに無関係な入力

故障探究手順は、まず、始動キーをON にする（エンジンは始動しない）。不具合の出ている機能を表の一番左の欄から探し出す。必要な入力をそれぞれ操作してLED が点灯するのを確認する。

入力LED に問題がなければ出力LED を確認する。出力LED が点灯しているのにその機器が作動しない場合には、機器に到達している電圧、機器までの導

通、アース回路などを検査する。発見した故障内容に応じて修理を行う。

# ヒント

## 一般的なヒント

**⚠ 危険**

**この芝刈機は斜面での走行性能を高めるための特殊な駆動システムを採用しており、通常の3輪芝刈機とは違い、登りの限界角度に達して山側の車輪が浮いてしまっても前進することが可能です。急斜面で無理をしてこれが起こると転倒する危険があり、非常に危険です。**

**実際に転倒が起きる角度は一定ではありません。具体的な要素としては：芝草の状態や斜面の凹凸の状態、速度（特に旋回中の速度）、カッティングユニットの位置、タイヤ空気圧、オペレータの経験など多くの要素が複雑に絡み合って条件が形成されます。**

**一般に傾斜角度20 ° 以下では転倒の恐れは少ないといわれます。25° 程度で転倒の恐れは中程度となります。*これ以上の角度では転倒人身事故の恐れが極めて大きくなります。この機械は傾斜角度25° 以内の斜面でお使いください。***

**安全に刈り込み作業を行える法面かどうかの判断は、各マシンに付属している傾斜計を使って現場の調査を行って判断してください。このような調査に当たっては、芝草の状態、天候による変化、横転の危険など常識的な判断を十分に生かすように心がけてください。安全に刈り込み作業を行える法面かどうかの判断は、各マシンに付属している傾斜計を使って判断してください。危険度を調べるには、断面 5cm x 10cm 程度の角材を斜面におき、その上に傾斜計を載せてその斜面の角度を測ります。この方法では斜面の平均的な角度を得ることができますが、小さな凹凸は無視されるので実際の運転に当たってはなお十分な注意が必要です。*傾斜が25° を超える場所では本機を使用しないでください。***

**また、この機械ではステアリングチューブに傾斜計が取り付けてあります。これで運転中に左右の傾きを確認することができますから、25° 以上の斜面には入らないように十分注意してください。**

***運転時には必ずシートベルトを着用のこと。***

- 実際に作業を始める前に、安全な場所で運転操作に十分慣れておいてください。
- まずエンジンを始動し、ハーフスロットルでウォームアップします。エンジンが温まったらフルスロットルにしてください。カッティングユニットを上昇させ、駐車ブレーキを解除し、移動走行モードにセットし、静かに前進ペダルを踏み込んで、安全な広い場所に移動してください。
- まず、前進、後退、停止を練習します。走行ペダルから足を離せば ペダルは自動的にニュートラル位置に戻って停止します。下り坂を走行中に停止する場合は、後退ペダルを利用するほうが効果的でしょう。
- 斜面では十分に速度を落としてハンドリングを安定させてください。斜面を横切って走行する前には、サイドワインダー･カッティングユニットを山側にスライドさせて機体を安定させましょう。谷側にスライドさせると機体が不安定になりますから注意してください。この操作は必ず斜面を横切り始める前に済ませてください
- 斜面の刈り込みは、できるだけ上下方向に行ってください。斜面を下るときには、機体を安定させるためにカッティングユニットを下げておいてください。斜面では旋回しないでください。
- 障害物の周囲をカッティングユニットを下げた状態、上げた状態のどちらでも上手に旋回できるように練習してください。狭い場所を通り抜ける時、マシンやカッティングユニットをぶつけて損傷しないよう十分注意してください。
- サイドワインダーを使って左右へのスライドによるリーチの感覚をつかんでください。
- サイドワインダーの操作は、カッティングユニットが上昇位置にある時、または実際に芝刈り走行中以外は行わないでください。カッティングユニットを下げたまま、機体が停止している時にスライド動作を行うと、芝生を損傷します。
- ラフでは低速で走行してください。
- 芝刈り中に周囲に人が現れた場合には直ちにブレードを停止させてください。周囲に人がいる所では絶対に作業をしないでください。この機械は1 人乗りです。人を便乗させないでください。大変危険であり、人身事故の恐れがあります。
- 事故は誰にでも起こります。事故の原因で最も多いのはスピードの出しすぎ、急旋回、地表面の不均一など（安全に刈れる傾斜の限度をきちんと守ること）などがあげられます。またエンジンを掛けたまま運転席を離れたり、薬物を摂取した状態で運転をしたりすることも止めてください。市販の風邪薬や処方箋薬でも眠気を催すことがありますから事前に確認しておくことが必要です。常に安全を確認しましょう。無理をすると重大な事故を引き起こします。
- サイドワインダーでは、オーバーハングが最大 33 cm にも達しますのでバンカーや池などの障害物から十分に離れた位置からギリギリまで刈り込みを行うことができます。

- また前方に障害物があってもカッティングユニットのスライド動作でかわすことができます。
- 移動走行時にはカッティングユニットを上昇させ、走行モード切り換えレバーを「移動走行」モード（左位置）にし、最大スロットルにセットしてください。

## 刈り込みパターン

同じ方向からの刈り込みを続けていると芝草が寝てしまい、刈ったあとの見映えが悪くなりますから、刈り込みの方向はできるだけ毎回変えるようにしましょう。

## カウンタバランス

カウンタバランスシステムにより、刈り込みデッキの油圧昇降シリンダからデッキへバック圧を掛けています。これにより、デッキの重量の一部を駆動輪に移して走行性を高めています。カウンタバランスの圧力設定は製造時に行われており、通常はこのままで大抵の刈り込み条件において、走行性能と刈り上がりが最も適切にバランスするようになっています。カウンタバランスの設定を下げると、刈り込みデッキを安定させ、走行性をやや落とします。設定を上げると、走行性がアップしますが、デッキが軽くなることが原因で刈り跡に問題が出てくる場合が考えられます。カウンタバランスの油圧調整設定についてより詳しくは、サービスマニュアルを参照してください。

## 刈り込み後の見映えに問題があるとき

www.Toro.com にて、Aftercut Appearance Troubleshooting Guide （見映えのトラブルシューティングガイド）を参照してください。

## 刈り込みのテクニック

- ブレードを回転させてからゆっくりと芝刈り場所に入ります。前のカッティングユニットが芝刈りの境界内に入ったところでカッティングユニットを降下させます。
- 真っ直ぐに刈りたい（きれいなストライプを作りたいときなど）場合は、樹木などを目印にして走行してください。
- 前方のカッティングユニットが芝刈りエリアの境界についたらカッティングユニットを上げます。「雨だれ型」のターンを行うと、早く旋回し、しかもラインを揃えやすくなります。
- サイドワインダー搭載機はバンカー周りや池の周囲の刈り込みを簡単に行うことができます。シフトレバーを右または左に倒せば同じ方向にカッティングユニットがスライドします。タイヤが毎回同じ場所を通らないように刈りたい場合も、この機能が役立ちます。
- 刈りカスは左側に排出されます。従って、サンドバンカーの周囲などを刈るときは、右回りに刈ると、刈りカスをバンカー内に落とさずにきれいに刈ることが出来ます。
- カッティングユニットにはマルチングバッフルを取り付けることが出来ます。マルチングバッフルを使ってきれいに刈り上げるコツは、一回の刈り取り長さが2.5 cm 以上にならないように定期的な刈り込みを行うことです。刈り込み長さが大きくなりすぎると刈り上がりの見た目が汚くなり、刈り込みに必要なパワーも増えてしまいます。マルチングバッフルは、秋に落ち葉を粉砕処理する作業にも大変適しています。

## 刈り込みは芝が乾いている時に

刈り込みは、朝露を避けて遅めの午前中か、直射日光を避けて午後遅くに行いましょう。露があると草がかたまりになりやすく、また刈りたての草は強い直射日光に当たるとダメージを受けます。

## 条件に合った刈り高の設定を

一度に切り取る長さは25 mm以内に抑えましょう。草丈の1/3 以上は刈り取らないのが原則です。成長期の密生している芝生では刈り高設定をさらに一目盛り上げる必要があるかもしれません。

## いつも鋭利なブレードを使うこと

刃先が鋭利であれば、芝草の切り口もきれいです。切れ味の悪い刃先は芝草を引きちぎるので、切り口が茶色に変色し、芝草の成長を悪くし、また病気にもかかりやすくなります。ブレードの状態が良いこと、また、セール部分にまったく欠落がないことが大切です。

## カッティングユニットのコンディションを点検してください。

デッキのチェンバ（ブレードのある空間）を良いコンディションに維持してください。チェンバの内部が曲がっていたりしたら、元通りに修正し、ブレードとチェンバの壁との間に十分なすきまを確保してください。

## 刈り込みがおわったら

一日の作業を終え、エンジン温度が下がったら、洗車してください。洗車には普通のホースを使用します。ノズルや圧力洗浄器は、シール部分やベアリングに浸水させる恐れがありますので使用しないでください。ラジエターおよびオイルクーラに刈りかすやごみが付着していたらきれいに取り除いてください。洗浄後、オイル漏れ、損傷、磨耗などがないか、またカッティングユニットの切れ具合を点検することをお奨めします。

**重要 洗浄が終わったら、サイドワインダーを左右に数回動かしてください。これにより、ベアリングブロックとクロスチューブに溜まっている水を掃き取ることができます。**

# 保守

**注** 前後左右は運転位置からみた方向です。

## 推奨される定期整備作業

| 整備間隔 | 整備手順 |
|---|---|
| 使用開始後最初の 1 時間 | · ホイールナットのトルク締めを行う。 |
| 使用開始後最初の 8 時間 | · 全部のベルトの状態と張りを点検します。 |
| 使用開始後最初の 10 時間 | · ホイールナットのトルク締めを行う。<br>· 油圧フィルタを交換します。 |
| 使用開始後最初の 50 時間 | · オイルとフィルタの交換 |
| 使用するごとまたは毎日 | · エンジンオイルの量を点検してください。<br>· 冷却水の量を点検する。<br>· 油圧オイルの量を点検する。<br>· タイヤ空気圧を点検する。<br>· インタロック·システムを点検します。<br>· ラジエターとオイルクーラ部分を清掃してください。<br>· 油圧ラインとホースを点検する。 |
| 25運転時間ごと | · バッテリー液の量を点検する。（格納中は30 日ごとに点検します。） |
| 50運転時間ごと | · ベアリングとブッシュのグリスアップを行う。（非常にホコリの多い条件で使用しているときには、毎日グリスアップしてください。） |
| 200運転時間ごと | · ホイールナットのトルク締めを行う。<br>· エアクリーナの整備（悪条件下ではより頻繁に整備を行ってください。）<br>· カーボンキャニスタフィルタを交換する<br>· オイルとフィルタの交換<br>· 駐車ブレーキの調整状態を点検します。<br>· 全部のベルトの状態と張りを点検する。<br>· 油圧フィルタを交換する。 |
| 400運転時間ごと | · 点火プラグを交換します。<br>· 燃料ポンプフィルタを交換します。<br>· 燃料ラインとその接続を点検します。<br>· 油圧オイルを交換する。 |
| 500運転時間ごと | · リアアクスル·ベアリングのグリスアップ |
| 2年ごと | · 燃料タンクを空にして内部を清掃します。<br>· 冷却系統の内部を洗浄し新しい冷却液に交換する。 |

**⚠ 注意**

**始動キーをつけたままにしておくと、誰でもいつでもエンジンを始動させることができ、危険である。**

**整備・調整作業の前には必ずエンジンを停止し、キーを抜いておくこと。**

# 始業点検表

このページをコピーして使ってください。

| 点検項目 | 第 週 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
| インタロックの動作 | | | | | | | |
| ブレーキの動作 | | | | | | | |
| エンジンオイルの量を点検する。 | | | | | | | |
| 冷却水の量を点検する | | | | | | | |
| エアフィルタ、ダストカップ、バルブを点検。 | | | | | | | |
| エンジンから異常音がないか点検する。[2] | | | | | | | |
| ラジエターとスクリーンの汚れ | | | | | | | |
| 運転操作時の異常音 | | | | | | | |
| 油圧オイルの量を点検する。 | | | | | | | |
| 油圧ホースの磨耗損傷を点検。 | | | | | | | |
| オイル漏れなど。 | | | | | | | |
| 燃料残量を点検する。 | | | | | | | |
| タイヤ空気圧を点検する | | | | | | | |
| 計器類の動作 | | | | | | | |
| 刈高の調整の点検 | | | | | | | |
| グリスアップを行なう。[2] | | | | | | | |
| 塗装傷のタッチアップを行う。 | | | | | | | |

[1]始動困難、大量の煙、咳き込むような走りなどが見られる場合はグロープラグと噴射ノズルを点検する。

[2]車体を水洗いしたときは**整備間隔に関係なく直ちに**グリスアップする。

**重要** エンジンの整備に関する詳細はエンジンの*オペレーターズマニュアル*を参照してください。

**要注意個所の記録**

| 点検担当者名: | | |
|---|---|---|
| **内容** | **日付** | **記事** |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

## 定期整備ステッカー

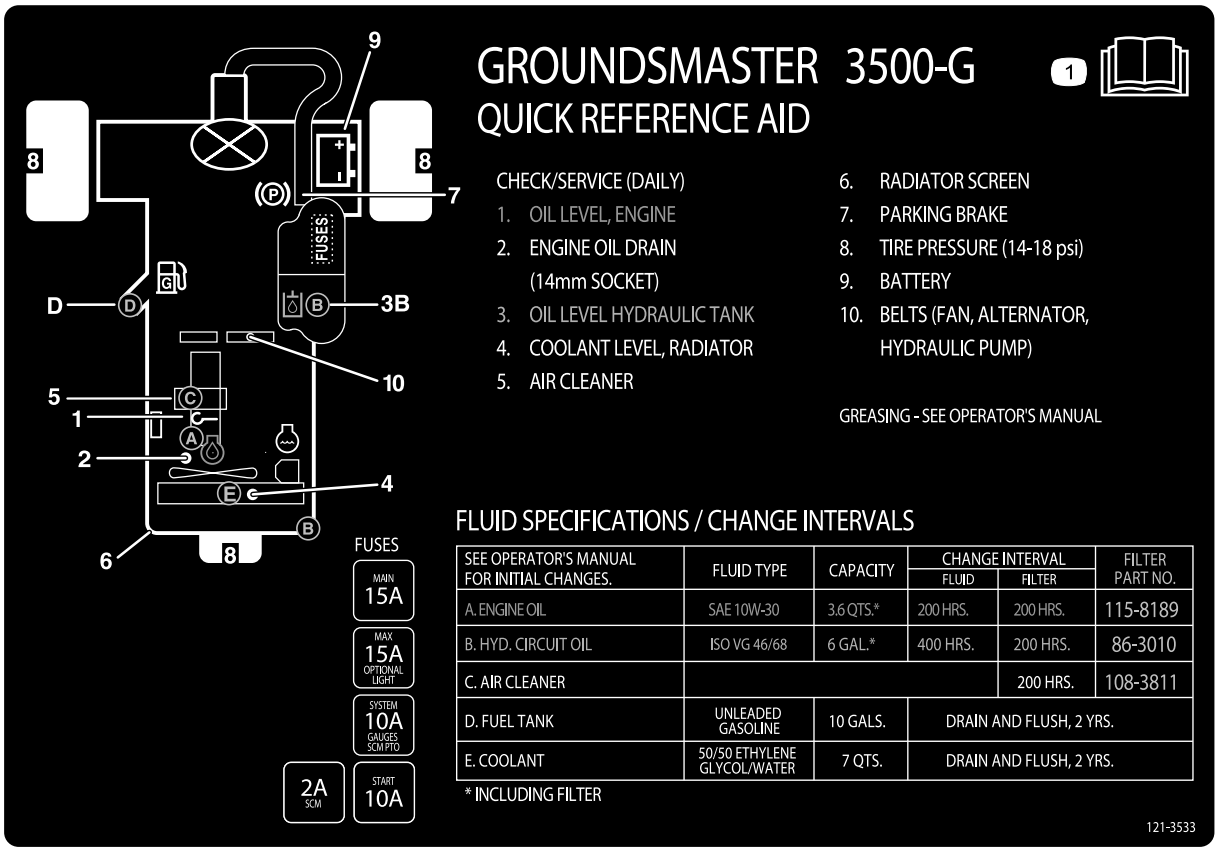



**図 28**

# *整備前に行う作業*

## フードの外しかた

整備をやりやすくするため、フードは簡単に取り外すことができます。

1. ラッチを外してフードを開ける。
2. フードのピボット部をブラケットに固定しているヘアピンコッターを抜き取る（図 29）。

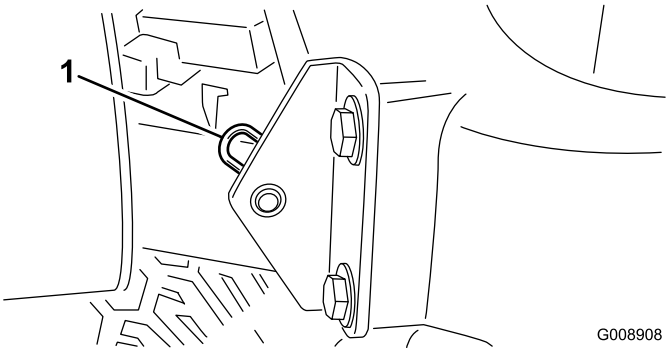



**図 29**

1. ヘアピンコッター

3. フードを右側にスライドさせながら反対側を持ち上げると外れる。

**注** 取り付けは上記と逆の手順で行う。

# ベアリングとブッシュのグリスアップ

**整備間隔:** 50運転時間ごと （非常にホコリの多い条件で使用しているときには、毎日グリスアップしてください。）

500運転時間ごと/1年ごと （いずれか早く到達した方）

定期的に、全部のベアリングとブッシュにNo.2汎用リチウム系グリスを注入します。悪条件下（ホコリの多い環境）では毎回グリスアップしてください。ベアリングやブッシュの内部に異物が入ると急激に磨耗が進行します。車体を水洗いしたときは整備間隔に関係なく直ちにグリスアップしてください。

グリスアップ箇所を以下に列挙します：

・ 後カッティングユニットのピボット（図 30）

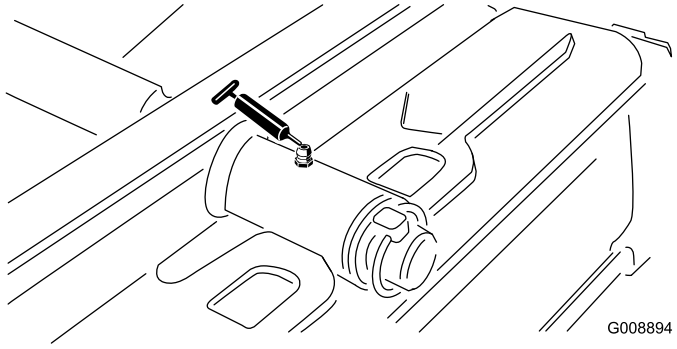



**図 30**

・ 前カッティングユニットのピボット（図 31）

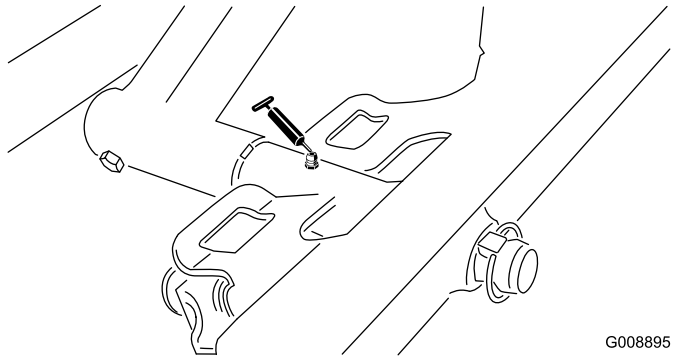



**図 31**

・ サイドワインダーのシリンダの両端（2ヶ所）（図 32）

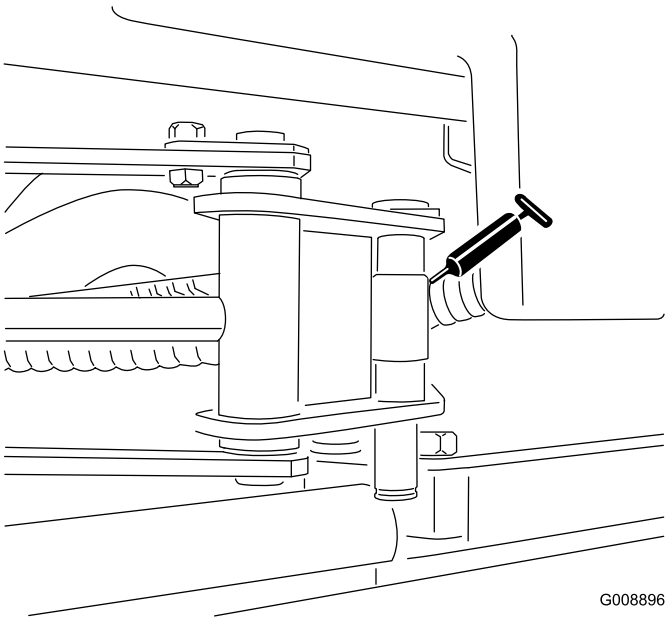



**図 32**

・ ステアリングピボット（図 33）

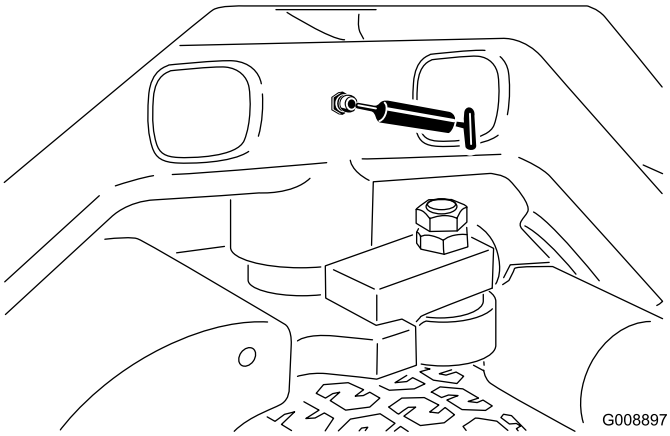



**図 33**

・ 後昇降アームのピボット昇降シリンダ（2ヶ所）（図 34）

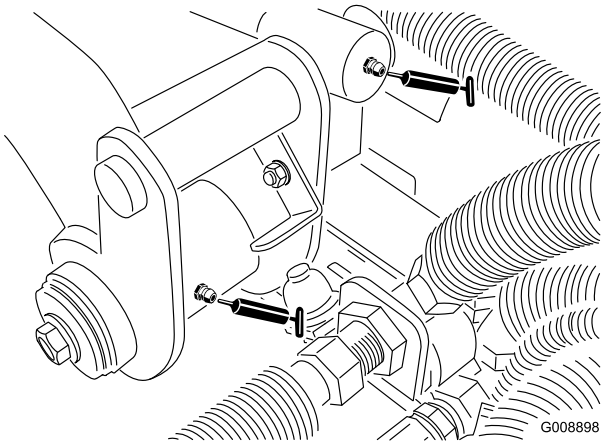



**図 34**

・ 左前昇降アームのピボット昇降シリンダ（2ヶ所）（図 35）

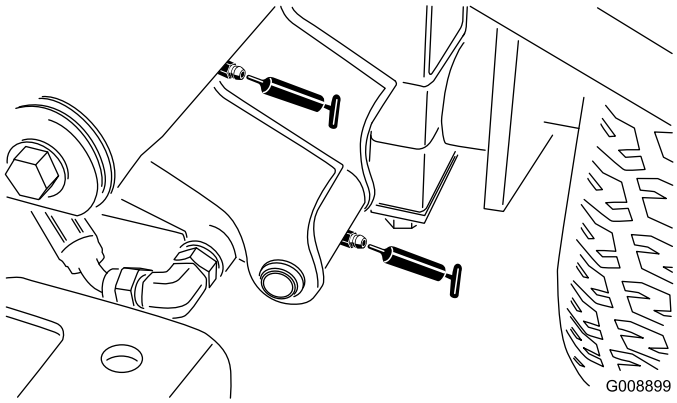



**図 35**

・ 右前昇降アームのピボット昇降シリンダ（2ヶ所）（図 36）

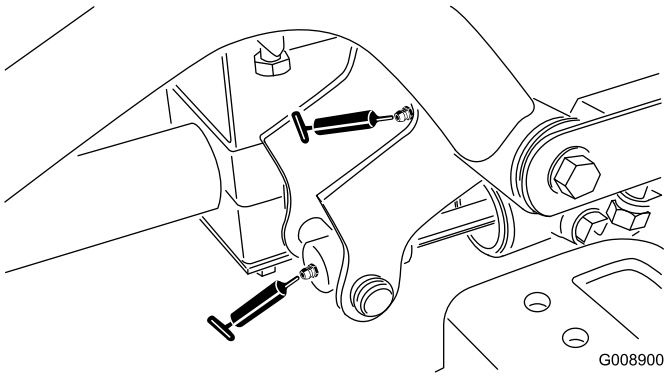



**図 36**

・ ニュートラル調整機構（図 37）

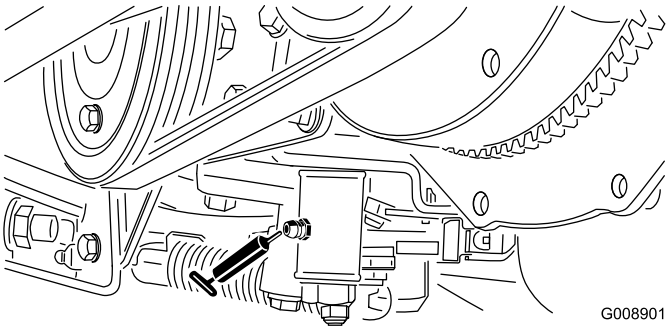



**図 37**

・ 刈り込み・移動走行切り換えレバー(図 38)

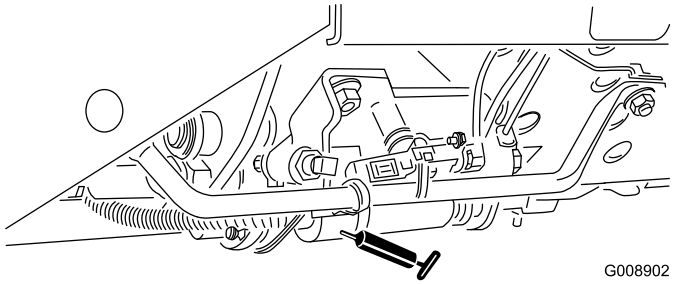



**図 38**

・ ベルトテンションピボット（図 39）

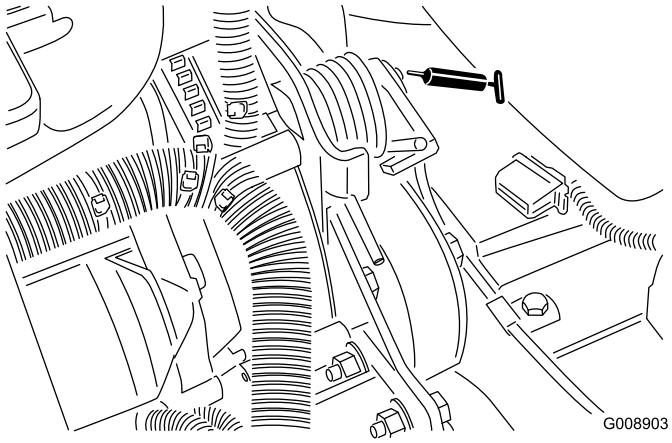



**図 39**

・ ステアリングシリンダ（図 40）

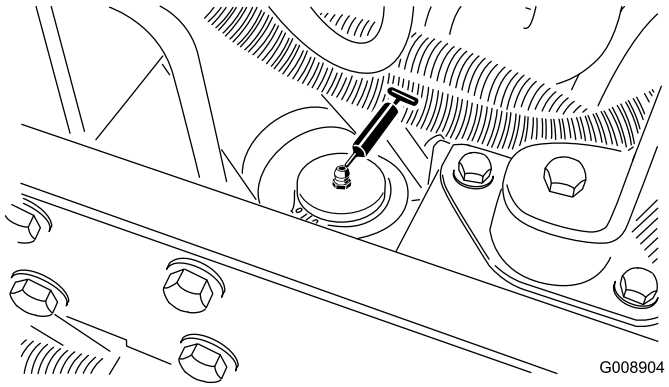



**図 40**

**注** ステアリングシリンダ反対側の端にグリス注入箇所を作ることができます。その場合、タイヤを外し、ニップルを付け、グリスを注入し、ニップルを外し、プラグを取り付けます（図 41）。

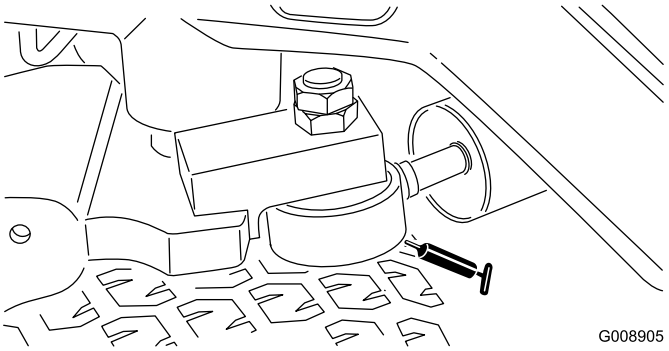



**図 41**

・ カッティングユニットのスピンドルシャフトのベアリング（各カッティングユニットに1ヶ所）（図 42）

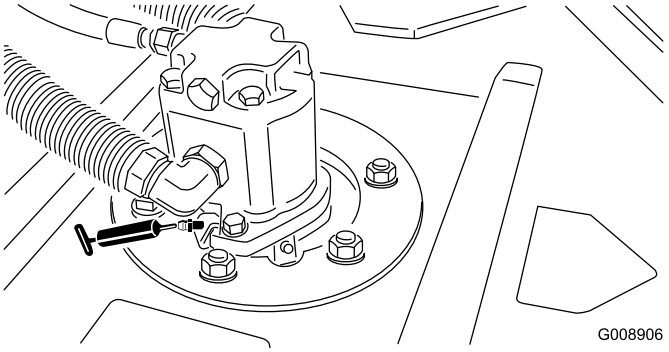



**図 42**

・ 後ローラのベアリング（各カッティングユニットに2ヶ所）（図 43）

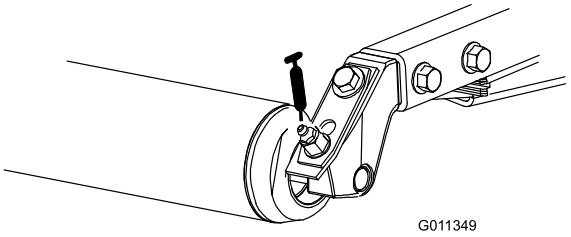



**図 43**

**注** ローラの注入部（図 43）面一フィッティングなので、グリスガン用ノズルアダプタが必要です。パーツ番号は P/N 107-1998。ご注文は Toro 代理店へ。

**重要 サイドワインダーのクロスチューブにはグリスを塗布しないでください。クロスチューブは自己潤滑タイプです。**

# エンジンの整備

## エアクリーナの整備

**整備間隔:** 200運転時間ごと （悪条件下ではより頻繁に整備を行ってください。）

定期的にエアクリーナとホース･アセンブリを点検し、エンジンの保護と寿命の安定をはかってください。エアクリーナ本体にリーク原因となりそうな傷がないか点検してください。ボディーが破損している場合は交換してください。

エアクリーナのフィルタの点検・交換は以下の要領で行います：

1. ラッチを引いて外し、カバーを左にひねってボディーからはずす。

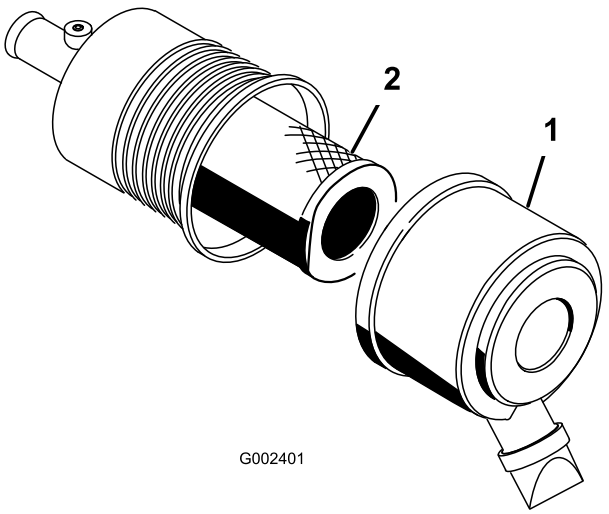



**図 44**

1. エアクリーナのカバー　　2. フィルタ

2. フィルタを外す前に、低圧のエア（2.8 kg/cm2、異物を含まない乾燥した空気）で、1次フィルタの外側とキャニスタとの間に溜まっている大きなゴミを取り除く。

   **重要 高圧のエアは使用しない。異物がフィルタを通ってエンジン部へ吹き込まれる恐れがある。このエア洗浄により、1次フィルタを外した時にホコリが舞い上がってエンジン部へ入り込むのを防止することができる。**

3. 1次フィルタを取り外して交換する。

   **注** エレメントを洗って再使用しないこと。洗浄によってフィルタの濾紙を破損させる恐れがある。

4. 新しいフィルタに傷がついていないかを点検する。特にフィルタとボディーの密着部に注意する。

   **重要 破損しているフ ィルタは使用しない。**

5. フィルタをボディー内部にしっかり取り付ける。エレメントの外側のリムをしっかり押さえて確実にボ ディーに密着させる。
6. カバーについている異物逃がしポートを清掃する。カバーについているゴム製のアウトレットバルブを外し、内部を清掃して元通りに取り付ける。
7. アウトレットバルブが下向き（後ろから見たとき、時計の5:00と7:00の間になるように）カバーを取り付ける。
8. カバーのラッチをしっかりと掛ける。

## カーボンキャニスタ･エアフィルタの交換

**整備間隔:** 200運転時間ごと

1. カーボンキャニスタ・エアフィルタを固定しているクランプをゆるめる（図 45）。カーボンキャニスタ・ホースとエアフィルタはエアクリーナホースにケーブルで固定されている。
2. カーボンキャニスタ・エアフィルタからホースを取り外す。
3. カーボンキャニスタ・フィルタを取り外して廃棄する（図 45）。フィルタに付いている矢印の向きに注意。

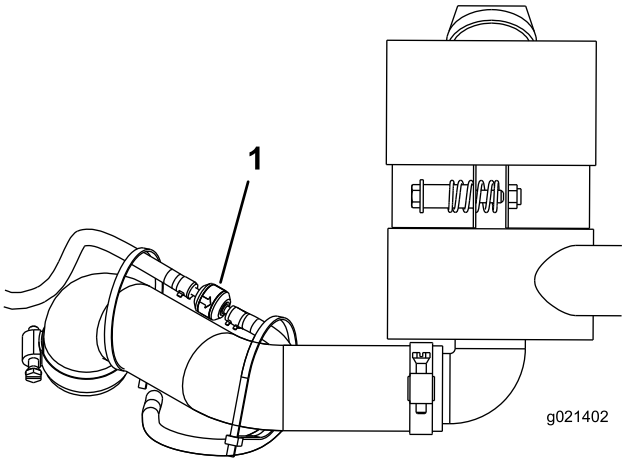



**図 45**

1. カーボンキャニスタ･エアフィルタ

4. 新しいエアフィルタを取り付ける。矢印がエンジンの方を向くように取り付けること。
5. カーボンキャニスタ・エアフィルタにホースを取り付け、クランプで固定する。

## エンジンオイルとフィルタの交換

**整備間隔:** 使用開始後最初の 50 時間

200運転時間ごと

1. ドレンプラグ（図 46）を外してオイルを容器に受ける。オイルが抜けたらドレンプラグを取り付ける。

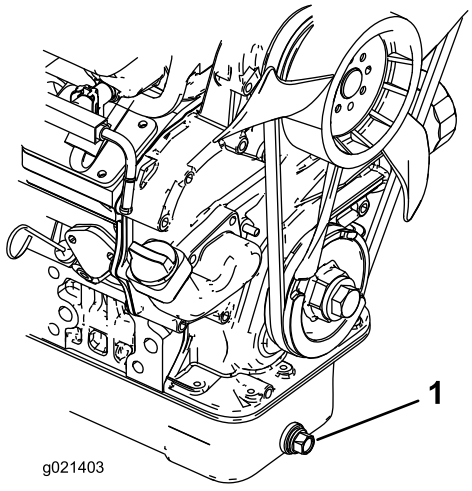



**図 46**

1. エンジンオイルのドレンプラグ

2. オイルフィルタ（図 47）を外す。新しいフィルタのシールに薄くエンジンオイルを塗って取り付 ける。**締めすぎないように注意すること。**

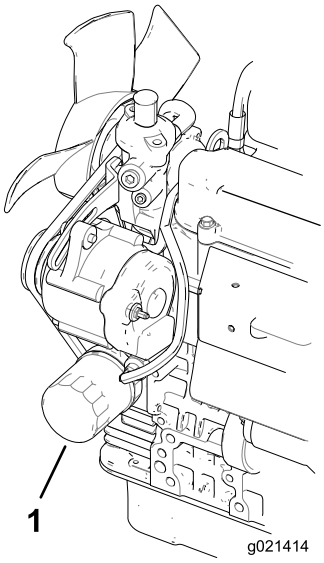



**図 47**

1. エンジンオイルのフィルタ

3. エンジンオイルを入れる。「エンジンオイルを点検する」の章を参照。

# 点火プラグの交換

**整備間隔：** 400運転時間ごと

点火プラグは非常に耐久性のある部品ですが、エンジンにトラブルが出た場合は必ず点検してください。また、トラブルの有無に関係なく400運転時間ごとに点検してください。エンジンの性能を維持し、排ガスをクリーンに保つために、劣化した点火プラグは必ず交換してください。

使用する点火プラグはチャンピオン（Champion）RN 14YC または NGK BPR 4ES です。

1. 点火プラグを外した時にエンジン内部に異物が落ちないように､プラグの周囲をきれいに清掃する。
2. 点火コードをプラグから外し、シリンダヘッドからプラグを外す。
3. 電極（側面と中央）と碍子の状態を点検する。

   **重要 割れ、欠け、汚れその他の不具合のある点火プラグは交換してください。点火プラグにサンドブラストをかけたり、ナイフ状のもので削ったり、ワイヤブラシで清掃したりしないでください。実際にこれが起こるとエンジンを破損します。**

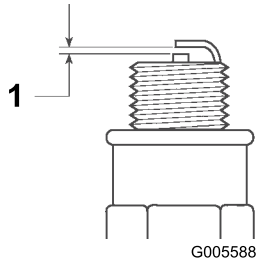



**図 48**

1. エアギャップ: 0.81 mm

4. それぞれのプラグのエアギャップを 0.81 mm に調整する。
5. 調整された点火プラグをエンジンに取りつけて、24.5-29 N-m（2.5-3.0 kg.m = 14 ft-lb）にトルク締めする。トルクレンチがない場合には、十分に締め付ける。
6. 点火コードをしっかりとはめ込む。

# 燃料系統の整備

## 燃料ポンプフィルタの交換

**整備間隔:** 400運転時間ごと

**⚠ 危険**

**ガソリンは非常に引火･爆発しやすい物質である。発火したり爆発したりすると、やけどや火災などを引き起こす。**

- **エンジンが冷えてから燃料タンクからガソリンを抜き取る。この作業は必ず屋外の広い場所で行う。こぼれたガソリンはふき取る。**
- **ガソリン取り扱い中は禁煙を厳守し、火花や炎を絶対に近づけない。**

1. ポンプへのアクセスを確保するために車体から運転席を外す（図 49）。

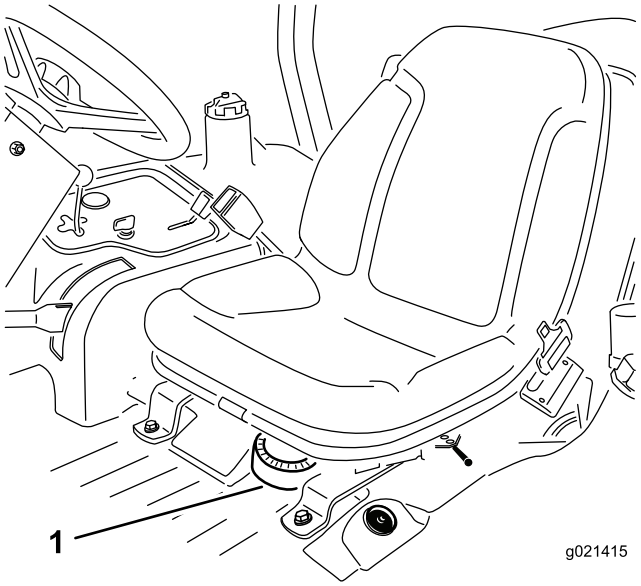



**図 49**

1. 燃料ポンプ

2. 燃料ポンプからワイヤハーネスのコネクタを外す（図 50）。
3. タンクから、燃料ポンプアセンブリと燃料フィルタを外す（図 50）。
4. 燃料フィルタのホースを燃料ポンプのフィッティングに固定しているクランプを外す。フィッティングからホースを取り外す（図 50）。

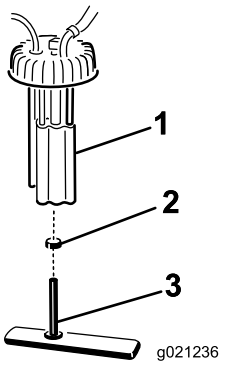



**図 50**

1. 燃料ポンプ
2. ホースクランプ
3. 燃料ライン/燃料フィルタ

5. 新しい燃料フィルタホースに、新しいホースクランプを取り付ける。
6. ホースを燃料ポンプに接続し、クランプで固定する。
7. アセンブリを燃料タンクに挿入し、キャップをトルク締めする； 20-22 N-m（2.0-2.3 kg.m = 175-200 in-lb）。
8. 電気コードを接続し、ホースをクランプで固定する。
9. 運転席を取り付ける

## 燃料タンクの整備

**整備間隔:** 2年ごと–燃料タンクを空にして内部を清掃します。

燃料系統が汚染された時や、マシンを長期にわたって格納する場合も同様です。タンクの清掃にはきれいな燃料を使用してください。

## 燃料ラインとその接続の点検

**整備間隔:** 400運転時間ごと/1年ごと （いずれか早く到達した方）

燃料ラインの劣化・破損状況やゆるみが出ていないか点検を行ってください。

# 電気系統の整備

## バッテリーの手入れ

**整備間隔:** 25運転時間ごと–バッテリー液の量を点検する。 （格納中は30 日ごとに点検します。）

バッテリーの電解液は常に正しいレベルに維持し、バッテリー上部を常にきれいにしておいてください。高温環境下で保管すると､涼しい場所で保管した場合に比べてバッテリーは早く放電します。

各セルへは、蒸留水またはミネラルを含まない水を適正レベルまで補給してください。但し、電解液の量が、各セルの内側についているスプリットリングの高さ以上にならないよう、注意してください。キャップは換気穴を後ろ（燃料タンク側）に向けて取り付けます。

**⚠ 危険**

**電解液には触れると火傷を起こす劇薬である硫酸が含まれている。**

- **電解液を飲まないこと。また、電解液を皮膚や目や衣服に付けないよう十分注意すること。安全ゴーグルとゴム手袋で目と手を保護すること。**
- **皮膚に付いた場合にすぐに洗浄できるよう、必ず十分な量の真水を用意しておくこと。**

バッテリー上部はアンモニア水または重曹水に浸したブラシで定期的に清掃してください。清掃後は表面を水で流して下さい｡清掃中はセルキャップを外さないでください。

バッテリーのケーブルは､接触不良にならぬよう､端子にしっかりと固定してください。

**⚠ 警告**

**バッテリーケーブルの接続手順が不適切であるとケーブルがショートを起こして火花が発生する。それによって水素ガスが爆発を起こし人身事故に至る恐れがある。**

- ***ケーブルを 取り外す時は*、必ずマイナス（黒）ケーブルから取り外し、次にプラス（赤）ケーブルを外す。**
- ***ケーブルを取り付ける時*は、必ずプラス（赤）ケーブルから取り付け、それからマイナス（黒）ケーブルを取り付ける。**

端子が腐食した場合は、ケーブルを外し（マイナスケーブルから先に外すこと）、クランプと端子とを別々に磨いてください｡磨き終わったらケーブルをバッテリーに接続し（プラスケーブルから先に接続すること）、端子にはワセリンを塗布してください。

**警告**

**カリフォルニア州**
**第65号決議による警告**

**バッテリーの電極部や端子などの部分には鉛や鉛含有物質が含まれており、カリフォルニア州では、これらの物質が癌や先天性異常の原因となるとされている。**
***取り扱い後は手を洗うこと。***

## ヒューズ

ヒューズはコンソールカバーの下にあります。

# 走行系統の整備

## 走行ドライブのニュートラル調整

走行ペダルをニュートラル位置にしても本機が動きだすようでしたら、トラクションカムを調整します。

1. スロットルレバーがパネルのスロットに当たるまで後ろに倒す。
2. 噴射ポンプのレバーアーム（図 51）の部分にあるスロットルケーブルのコネクタをゆるめる。

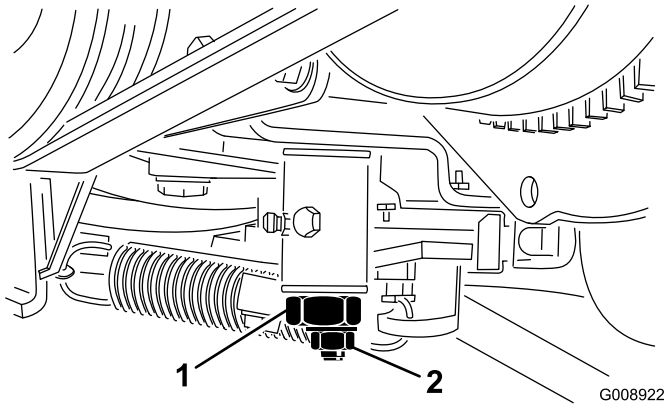



**図 51**

1. インジェクションポンプのレバーアーム

3. インジェクションポンプ･レバーのアームをローアイドル･ストップに当てた状態でケーブルコネクタを締める。
4. スロットルコントロールをコントロールパネルに固定しているネジをゆるめる。
5. スロットルレバーを一番前に倒す。
6. ストッププレートを滑らせてスロットルレバーに当て、その位置でスロットルコントロールをパネルに固定する。
7. 運転中にスロットルが動く場合は、スロットルレバーにケーブルを固定しているロックナットを5～6 Nm（0.5～0.6 kg.m）にトルク締めする。但しスロットルレバーは27Nm（9 kg）以内の力で操作できるように調整すること。

# 冷却系統の整備

## エンジンの冷却系統の清掃

**整備間隔:** 使用するごとまたは毎日

2年ごと

ラジエター/オイルクーラのスクリーンは毎日清掃してください。汚れが激しければより頻繁な清掃が必要です。

1. エンジンを止め、フードを開ける。エンジンの周囲を丁寧に清掃する。
2. オイルクーラ/ラジエターの裏表を、水または圧縮空気で丁寧に清掃する（図 52）。

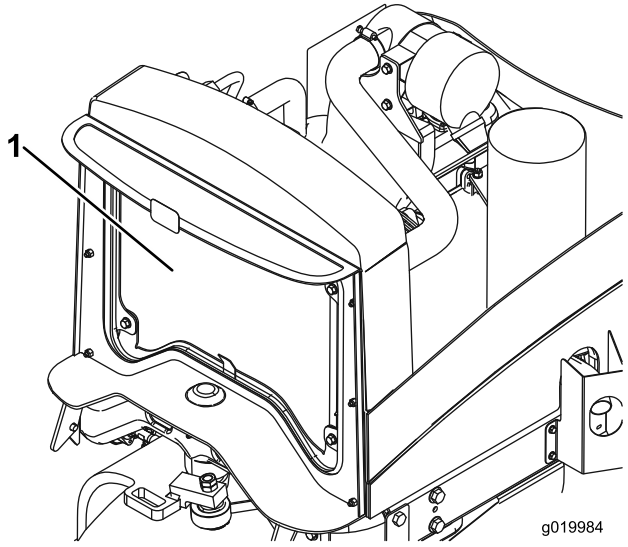



**図 52**

1. ラジエター/オイルクーラ

3. フードを閉じる。

# ブレーキの整備

## 駐車ブレーキの調整

**整備間隔：** 200運転時間ごと–駐車ブレーキの調整状態を点検します。

1. ブレーキレバーに調整ノブを固定している固定ネジをゆるめる（図 53）。

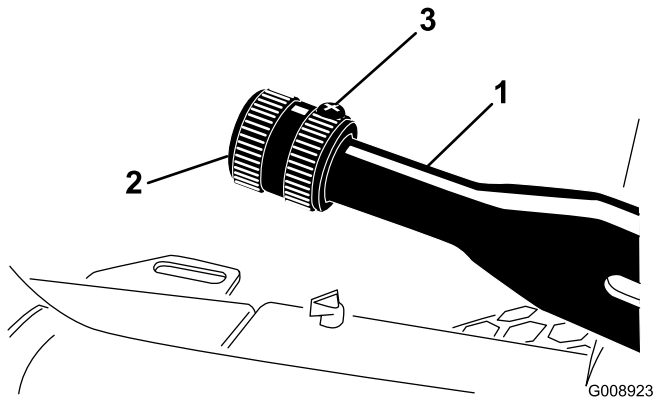



**図 53**

1. 駐車ブレーキレバー
2. ノブ
3. 固定ネジ

2. ブレーキを掛けるのに必要な力が41–68Nm（13.5～18 kg）となるようにノブを回して調整する。
3. ネジを締めて調整を固定する。

# ベルトの整備

## エンジンベルトの整備

**整備間隔：** 使用開始後最初の 8 時間–全部のベルトの状態と張りを点検します。

200運転時間ごと–全部のベルトの状態と張りを点検する。

### オルタネータ/ファン･ベルトの張り

1. フードを開ける。
2. ベルト中央（オルタネータとクランクシャフトプーリの間）を30Nm（10 kg）の力で押して点検する。 新しいベルトの場合は8～12mm 程度のたわみが出るのが適正です。 古いベルトの場合は10～14mm 程度のたわみが出るのが適正です。たわみの量が適正でない場合は以下の手順へ進む。適正であれば調整は不要である。

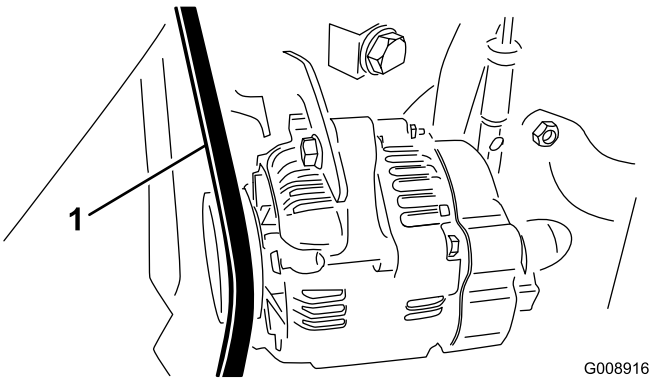



**図 54**

1. オルタネータ/ファン･ベルト

3. ベルトの張りの調整は以下のように行います：
   A. オルタネータの取り付けボルト（2 本）をゆるめる。
   B. エンジンとオルタネータの間にバールを入れて適当な張りに調整し、取り付けボルトを締め付ける。

### ハイドロスタットのベルトの交換

1. ベルトのテンションスプリングの端にナットドライバ（または細い金属管）を差し込む。

**⚠ 警告**

**スプリングには大きな張力が掛かっているので十分注意すること。**

2. スプリングの端を前側に押し下げてブラケットから外し、スプリングのテンションをなくす（図 55）。

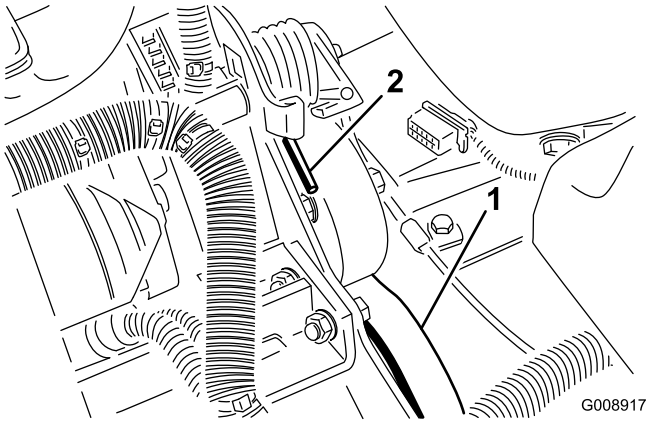



**図 55**

1. ハイドロスタット駆動ベルト　2. スプリングの端部

3. ベルトを交換する。
4. スプリングの取り付けと張り出しは上記と逆の手順で行う。

# 油圧系統の整備

## 油圧オイルフィルタの交換

**整備間隔:** 使用開始後最初の 10 時間

200運転時間ごと/1年ごと （いずれか早く到達した方）

トロ社の純正フィルタ（P/N 86-3010）をご使用ください。

**重要 純正品以外のフィルタを使用すると関連機器の保証が適用されなくなる場合があります。**

1. 平らな場所に駐車し、カッティングユニットを下降させ、エンジンを停止させ、駐車ブレーキを掛けてキーを抜き取る。
2. フィルタ取り付けプレートのホースにクランプを掛ける。
3. フィルタ取り付け部の周辺をウェスできれいにぬぐう。フィルタ（図 56）の下に廃油受けを置いてフィルタを外す。

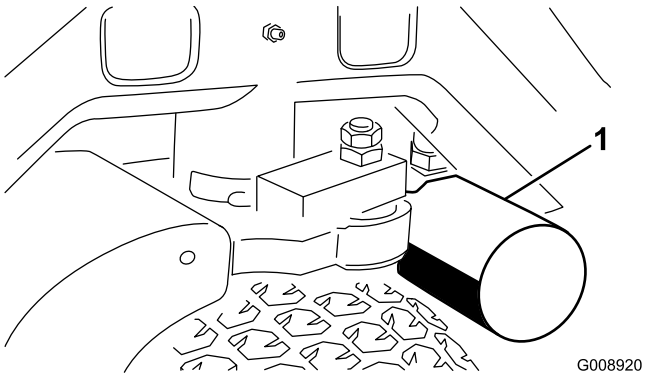



**図 56**

1. 油圧フィルタ

4. 新しいフィルタのガスケットに薄くオイルを塗布し中にオイルを入れる。
5. 取り付け部が汚れていないのを確認する。ガスケットがフィルタヘッドに当たるまで手で回して取り付け、そこから更に1/2回転増し締めする。
6. フィルタ取り付けプレートのホースをの締め付けを外す。
7. エンジンを始動して２分間運転し、システム内のエアをパージする。エンジンを停止させ、オイル漏れがないか点検する。

## 油圧オイルの交換

**整備間隔:** 400運転時間ごと

オイルが汚染されてしまった場合は油圧系統全体を洗浄する必要がありますので、Toro 代理店にご連絡ください。汚染されたオイルは乳液状になったり黒ずんだ色なったりします。

1. エンジンを止め、フードを開ける。
2. 油圧ラインの接続部（図 57）または油圧フィルタ（図 56）を外し、流れ出すオイルを容器に受ける。オイルが全部流れ出たらラインを元通りに接続する。

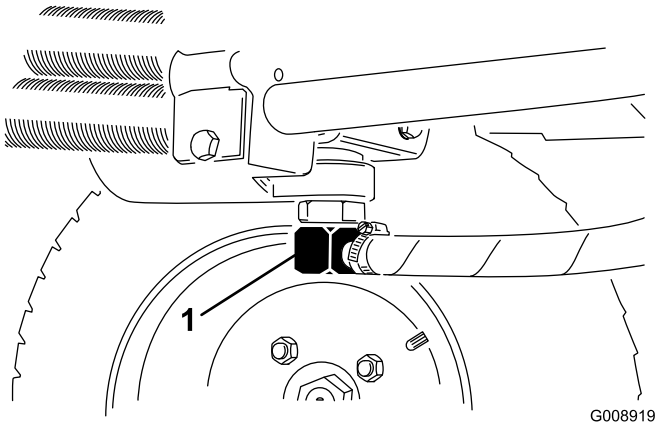



**図 57**

1. 油圧ライン

3. 油圧オイルタンク（図 58）に約 22.7 リットルのオイルを入れる；「油圧系統を点検する」を参照。

   **重要 指定された銘柄のオイル以外は使用しないでください。他のオイルを使用するとシステムを損傷する可能性があります。**

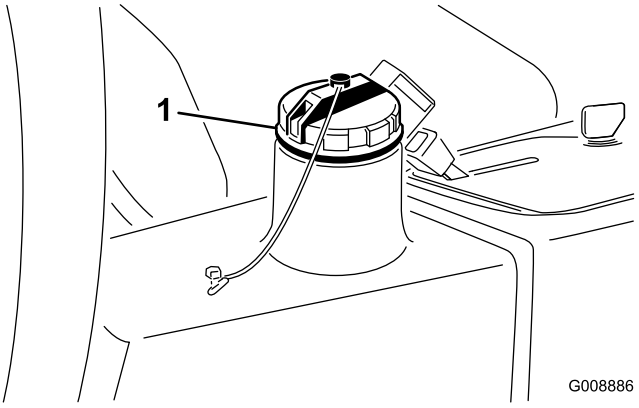



**図 58**

1. 油圧オイル補給口キャップ

4. タンクにキャップを取り付ける。エンジンを始動し、全部の油圧装置を操作して内部にオイルを行き渡らせる。また、オイル漏れがないか点検して、エンジンを停止する。
5. 油量を点検し、足りなければディップスティックの 2本のマークの中間まで補給する。**入れすぎないこと。**

# 油圧ラインとホースの点検

**整備間隔:** 使用するごとまたは毎日

油圧ライン・油圧ホースにオイル漏れ、ねじれ、支持部のゆるみ、磨耗、フィッティングのゆるみ、風雨や薬品による劣化などがないか点検する。異常を発見したら必ず運転を行う前に修理してください。

**⚠ 警告**

**高圧で噴出する作動油は皮膚を貫通し、身体に重大な損傷を引き起こす。**

- **油圧を掛ける前に、油圧ラインやホースに傷や変形がないか接続部が確実に締まっているかを確認する。**
- **油圧のピンホールリークやノズルからは作動油が高圧で噴出しているので、絶対に手などを近づけない。**
- **リークの点検には新聞紙やボール紙を使う。**
- **油圧関係の整備を行う時は、内部の圧力を確実に解放する。**
- **万一、油圧オイルが体内に入ったら、直ちに専門医の治療を受けてください。**

# 保管

## バッテリーの保管

本機を30 日以上にわたって使用しない場合は、バッテリーを取り外して充電しておいてください。温度が高いとバッテリーは早く放電しますので、涼しい場所を選んで保管してください。 バッテリーの凍結を防止するため、フル充電状態で保管するようにしてください。この時、電解液の比重は1.265～1.299になります。

## 冬期格納保管のための準備

本機を30日間以上にわたって格納保管する場合には、以下の作業を行ってください。

### トラクションユニット

1. トラクションユニット、カッティングユニット、エンジンをていねいに洗浄する。
2. タイヤ空気圧を点検する全部のタイヤに空気を入れる（タイヤ空気圧：（97～110 kPa=1.0～ 1.3 kg/cm2）。
3. ボルト・ナット類にゆるみながいか点検し、必要な締め付けを行う。
4. グリス注入部やピボット部全部をグリスアップする。余分のグリスやオイルはふき取る。
5. 塗装のはがれている部分に軽く磨きをかけ、タッチアップする。金属部の変形を修理する。
6. バッテリーとケーブルに以下の作業を行う：
   A. バッテリー端子からケーブルを外す。
   B. バッテリーを取り出す。
   C. 電極板の劣化を防止するため、バッテリーの保管開始前およびその後は60日ごとに24時間かけてゆっくりと充電する。

      バッテリーの凍結を防止するため、フル充電状態で保管するようにしてください。この時、電解液の比重は 1.265～1.299になる。
   D. バッテリー本体、端子、ケーブル端部を重曹水とブラシで洗浄する。
   E. 腐食防止のために両方の端子部にワセリン（Grafo 112X: P/N 505-47）を薄く塗る。
   F. 充電終了後は、機体に取り付けて、または外したまま、涼しい場所で保管する。機体に取り付けて保存する場合は、ケーブルを外しておく。

### エンジン

1. エンジンオイルを抜き取り、ドレンプラグをはめる。
2. オイルフィルタを外して捨てる。新しいオイルフィルタを取り付ける。
3. オイルパンに3.3リットルのモーターオイルを入れる。
4. エンジンを始動し、約2分間のアイドル運転を行う。
5. エンジンを止める。
6. 保管期間が 30 日間以上に及ぶ場合には、燃料系統に以下の整備を行う：
   - 石油系のスタビライザ/コンディショナ（燃料品質安定剤）を燃料タンクの燃料に添加する。

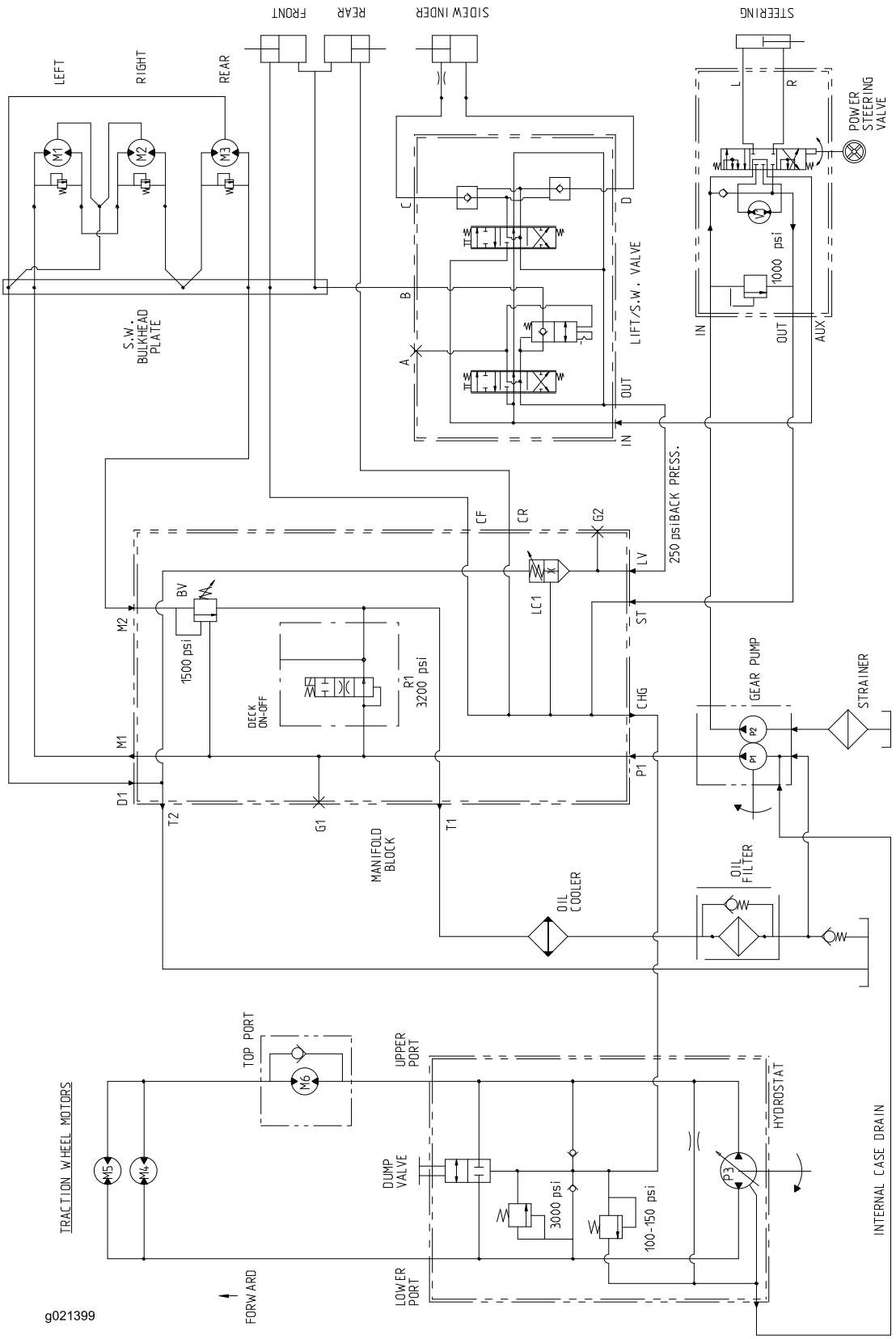
     混合手順は、スタビライザの説明書に従うこと。アルコール系のスタビライザ（エタノール系やメタノール系）は使用しないこと。

     **注** スタビライザは、新しい燃料に添加して常時使うのが最も効果的です。
   - エンジンをかけて、コンディショナ入りのガソリンを各部に循環させる（5分間）。
   - エンジンを停止し、温度が下がるのを待ってガソリンを抜き取る。
   - エンジンを再度始動する。チョークを引いて始動し自然停止まで運転する。
   - 始動できなくなるまでエンジンの始動･運転を続ける。
   - 抜き取った燃料は地域の法律などに従って適切に処分する。廃油などはそれぞれの地域の法律などに従って適正に処分する。

     **重要 コンディショナ入りのガソリンでも90日間以上の保存はしないでください。**
7. 点火プラグを外し、点検を行う；「点火プラグの整備」を参照。
8. 点火プラグの取り付け穴から、エンジンオイルをシリンダ内にスプーン2杯程度流し込む。
9. スタータモータを使ってクランクを回転させて内部にオイルを十分に行き渡らせる。
10. 点火プラグを取り付けて規定値にトルク閉めする；「点火プラグの交換」を参照。

    **注** ただし点火プラグのコードは外しておく。
11. 不凍液の量を確認し必要に応じ補給する（保管場所の最低気温を考慮すること）。
12. 燃料系統の接続状態を点検し必要な締め付けを行う。
13. エアクリーナをきれいに清掃する。
14. エアクリーナの吸気口とエンジンの排気口を防水テープでふさぐ。

# 図面




**油圧回路図 (Rev. A)**

メモ：

メモ：

メモ：

# Toro 製品の総合品質保証

限定保証

## 保証条件および保証製品

Toro 社およびその関連会社であるToro ワランティー社は、両社の合意に基づき、Toro 社の製品(「製品」と呼びます)の材質上または製造上の欠陥に対して、2年間または1500運転時間のうちいずれか早く到達した時点までの品質保証を共同で実施いたします。この保証はエアレータを除くすべての製品に適用されます(エアレータに関する保証については該当製品の保証書をご覧下さい)。この品質保証の対象となった場合には、弊社は無料で「製品」の修理を行います。この無償修理には、診断、作業工賃、部品代、運賃が含まれます。保証は「製品」が納品された時点から有効となります。
*アワーメータを装備している機器に対して適用します。

## 保証請求の手続き

保証修理が必要だと思われた場合には、「製品」を納入した弊社代理店(ディストリビュータ又はディーラー) に対して、お客様から連絡をして頂くことが必要です。連絡先がわからなかったり、保証内容や条件について疑問がある場合には、本社に直接お問い合わせください。

Toro Commercial Products Service Department
Toro Warranty Company
8111 Lyndale Avenue South
Bloomington, MN 55420-1196

952-888-8801 または 800-952-2740
E-mail: commercial.warranty@toro.com

## オーナーの責任

「製品」のオーナーは*オペレーターズマニュアル*に記載された整備や調整を実行する責任があります。これらの保守を怠った場合には、保証が受けられないことがあります。

## 保証の対象とならない場合

保証期間内であっても、すべての故障や不具合が保証の対象となるわけではありません。以下に挙げるものは、この保証の対象とはなりません:

- Toroの純正交換部品以外の部品や Toro 以外のアクサセリ類を搭載して使用したことが原因で発生した故障や不具合。これらの製品については、別途製品保証が適用される場合があります。
- 推奨される整備や調整を行わなかったことが原因で生じた故障や不具合。*オペレーターズマニュアル* に記載されている弊社の推奨保守手順に従った適切な整備が行われていない場合。
- 運転上の過失、無謀運転など「製品」を著しく過酷な条件で使用したことが原因で生じた故障や不具合。
- 通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類。但しその部品に欠陥があった場合には保証の対象となります。通常の使用に伴って磨耗消耗する部品類とは、ブレーキパッドおよびライニング、クラッチライニング、ブレード、リール、ローラおよびベアリング(シールドタイプ、グリス注入タイプ共)、ベッドナイフ、タイン、点火プラグ、キャスタホイール、ベアリング、タイヤ、フィルタ、ベルトなどを言い、この他、液剤散布用の部品としてダイヤフラム、ノズル、チェックバルブなどが含まれます。
- 外的な要因によって生じた損害。外的な要因とは、天候、格納条件、汚染、弊社が認めていない燃料、冷却液や潤滑剤、添加剤、肥料、水、薬剤の使用などが含まれます。
- エンジンのための適正な燃料(ガソリン、軽油、バイオディーゼルなど)を使用しなかったり、品質基準から外れた燃料を使用したために発生した不具合。
- 通常の使用にともなう音、振動、磨耗、損耗および劣化。
- 通常の使用に伴う「汚れや傷」とは、運転席のシート、機体の塗装、ステッカー類、窓などに発生する汚れや傷を含みます。

## 部品

定期整備に必要な部品類(「部品」)は、その部品の交換時期が到来するまで保証されます。この保証によって交換された部品は製品の当初保証期間中、保証の対象となり、取り外された製品は弊社の所有となります。部品やアセンブリを交換するか修理するかの判断は弊社が行います。場合により、弊社は再製造部品による修理を行います。

## ディープサイクルおよびリチウムイオン・バッテリーの保証:

ディープサイクル・バッテリーやリチウムイオン・バッテリーは、その寿命中に放出することのできるエネルギーの総量(kWh)が決まっています。一方、バッテリーそのものの寿命は、使用方法、充電方法、保守方法により大きく変わります。バッテリーを使用するにつれて、完全充電してから次に完全充電が必要になるまでの使用可能時間は徐々に短くなってゆきます。このような通常の損耗を原因とするバッテリーの交換は、オーナーの責任範囲です。本製品の保証期間中に、上記のような通常損耗によってオーナーの負担によるバッテリー交換の必要性がでてくることは十分に考えられます。
注:(リチウムイオンバッテリーについて):リチウムイオンバッテリーには、その部品の性質上、使用開始後 3-5 年についてのみ保証が適用される部品があり、その保証は期間割保証(補償額逓減方式)となります。さらに詳しい情報については、*オペレーターズマニュアル* をご覧ください。

## 保守整備に掛かる費用はオーナーが負担するものとします

エンジンのチューンナップ、潤滑、洗浄、磨き上げ、フィルタや冷却液の交換、推奨定期整備の実施などは「製品」の維持に必要な作業であり、これらに関わる費用はオーナーが負担します。

## その他

上記によって弊社代理店が行う無償修理が本保証のすべてとなります。

**両社は、本製品の使用に伴って発生しうる間接的偶発的結果的損害、例えば代替機材に要した費用、故障中の修理関連費用や装置不使用に伴う損失などについて何らの責も負うものではありません。両社の保証責任は上記の交換または修理に限らせていただきます。その他については、排気ガス関係の保証を除き、何らの明示的な保証もお約束するものではありません。商品性や用途適性についての黙示的内容についての保証も、本保証の有効期間中のみに限って適用されます。**

米国内では、間接的偶発的損害に対する免責を認めていない州があります。また黙示的な保証内容に対する有効期限の設定を認めていない州があります。従って、上記の内容が当てはまらない場合があります。この保証により、お客様は一定の法的権利を付与されますが、国または地域によっては、お客様に上記以外の法的権利が存在する場合もあります。

## エンジン関係の保証について:

米国においては環境保護局(EPA)やカリフォルニア州法(CARB)で定められたエンジンの排ガス規制および排ガス規制保証があり、これらは本保証とは別個に適用されます。くわしくはエンジンメーカーのマニュアルをご参照ください。上に規定した期限は、排ガス浄化システムの保証には適用されません。くわしくは、製品に同梱またはエンジンメーカーからの書類に同梱されている、エンジンの排ガス浄化システムの保証についての説明をご覧下さい。

## 米国とカナダ以外のお客様へ

米国またはカナダから輸出された製品の保証についてのお問い合わせは、お買いあげのToro社販売代理店(ディストリビュータまたはディーラ)へおたずねください。代理店の保証内容にご満足いただけない場合は輸入元にご相談ください。